

CSR報告2009

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

トップメッセージ

誠と和と意欲

時代を越えて、社会に求められる存在であるために

百年に一度といわれる経済危機の中、当社も深刻な事態に直面しています。

このような時こそ、アンリツの真価が問われると考えています。



本文を読む

達成像

安全・安心で
快適な社会構築への貢献▶▶

グローバル経済社会との調和



地球環境保護の推進



コミュニケーションの推進

12の重要課題

お客様へのサービス	企業ブランドの確立	社会的課題への積極的対応	コンプライアンスの定着
リスクマネジメントの推進	サプライチェーンマネジメント	人権の尊重と多様性の推進	人材育成
労働安全衛生	社会貢献活動の推進	環境経営の推進	ステークホルダーとの コミュニケーション

特集



CSR報告書2009ダイジェスト



【PDF 4.2MB】

▲ページ先頭へ戻る

トップメッセージ(1/4)

CSR報告書2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、

2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

トップメッセージ

誠と和と意欲

時代を越えて、社会に求められる存在するために

百年に一度といわれる経済危機の中、当社も深刻な事態に直面しています。

このような時こそ、アンリツの真価が問われると考えています。



「誠と和と意欲」を持って他社にない高度な技術力を磨く



百年に一度といわれる経済危機の中、当社も深刻な事態に直面しています。このような時こそ、アンリツの真価が問われると考えています。アンリツは、幾多の困難を乗り越え、時代に応じて形を変えながらも、一貫して、情報・通信に関わる仕事をしてきました。近年は通信分野の計測器を主力分野しながら、光・IP通信システム、光応用精密計測機器、産業機械など、「はかる」技術を核としたさまざまな分野が育っています。

アンリツにとって最大の社会的存在意義は、「オリジナル＆ハイレベルなサービスと商品の提供」を通じて「安全・安心で快適な社会」の構築に貢献することです。それを可能にするコアテクノロジーが、長年にわたって蓄積され、深く根を張っています。この技術力が、社会から尊敬され、企業として存続を望まれる基本であると考えています。

114年の歴史を紡いできたアンリツのDNAには、わたしたちの決意にあたる言葉「誠と和と意欲」が刻まれています。アンリツが技術に対して高い意欲を持つのは当然ですが、それに加えて、あらゆることに誠心誠意を尽くし、「和」を大切にする社風が伝統になっています。この「オリジナル＆ハイレベル」と「誠と和と意欲」は、いずれも経営理念や企業行動憲章の中に明記され、従業員の行動のよりどころとなっています。

>> トップメッセージ(2/4) 違いを認めつつ調和をはかるグローバル化の新ステージ

▲ページ先頭へ戻る

トップメッセージ(2/4)

[CSR報告書2009](#)[トップメッセージ](#)[CSRマネジメント](#)[CSRの考え方](#)[アンリツのCSR達成像](#)[達成像1](#)[安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)[達成像2](#)[グローバル経済社会との調和](#)[達成像3](#)[地球環境保護の推進](#)[達成像4](#)[コミュニケーションの推進](#)[2008年度目標達成度、
2009年度目標設定](#)[事業概要](#)[第三者意見](#)[担当執行役員メッセージ](#)[編集方針](#)[アンケート](#)[CSR報告書 アーカイブ\(PDF\)](#)

違いを認めつつ調和をはかるグローバル化の新ステージ

アンリツは、グループ全体の売上で半分以上、主力の計測器分野で約7割が海外です。グローバルに事業を展開するアンリツにとって「グローバル経済社会との調和」は欠かせません。

それぞれの地域で認められるためには、当然のことながら「地球環境との調和」が必要です。また、法令遵守・コンプライアンスが基本なのは言うまでもないことで、毎年従業員教育をして意識を高めています。その上で、経済活動を通じて適正に利益を出し、従業員の雇用を守り、地域に対して経済的に還元する、地域密着企業をめざしていきます。

こうしたグローバル展開の中で私が非常に重視しているのが、先ほど言及した「和」です。日本人は争いごとが苦手で、とにかく丸く収めてしまいたいという傾向がありますが、「和」とは、単に仲良くやっていくことではありません。議論の過程ではグローバルに共通した理念や価値観に則って進め、しかし最終的には、国や地域によって異なる事情を認め合い調和をはかる、ということです。

これは雇用確保という基本的な社会的要請に対してもあてはまることです。例えば、今回の経済危機に伴う世界的な不況の影響を受け、企業存続のために残念ながら各地で雇用調整を含む厳しい施策を取らざるを得ませんでした。その際も、それぞれの国、地域の事情に応じたぎりぎりの線で企業存続との折り合いをつけることに腐心してきました。

こうして世界各地でグローバルに事業を展開していると、日本との文化の違いによって摩擦が起きることもあります。しかし、そうした文化の違いを受け入れ、多くを学ぶべきだと私は考えます。とくに日本の従業員は「誠」の字にふさわしい勤勉な人が多いのですが、型破りな発想が苦手という一面もあります。そういう能力を海外に学び、うまく組み合わせることができればいいと思います。

アンリツは日本発祥の企業ですから、日本の古き良き企业文化は大切にしていかないと考えています。しかし“日本流”を押しつけることにならないようにならなければなりません。今後の事業展開上、アジア地域の比重が高まってきますが、同じアジアに住み、価値観も比較的近い者同士、良いスクラムを組んでいくのではないかと期待すると同時に、「同じはずだ」と思い込まないよう一層の注意が必要です。

こうした考え方の一貫として、アンリツではグローバル・コンパクトの活動を重視しており、2007年にはNotable COP(特筆すべき活動報告)に選ばれています。



[>> トップメッセージ\(3/4\) 重要課題を整理しCSRの達成像を改訂](#)

[▲ページ先頭へ戻る](#)

トップメッセージ(3/4)

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、

2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

重要課題を整理しCSRの達成像を改訂

当社は、経営理念と企業行動憲章に示されるCSRの方向性をより明確化・具体化するため、2006年度に中長期の達成像を定めました。2008年度は、CSRの今後の方向をより明確にするため、CSR全般にわたる重要性測定を行いました。その際、アンリツ社内の目線に加えて、地域社会の特性や時代の変化など、ステークホルダーにとっての重要性の視点を取り入れるようにしました。その結果として、CSR達成像の実現に向けた重要課題が整理され、あらたに見直された達成像がまとめました。

今回の重要性測定はCSR達成像の実現に向けた第一歩であり、その結果については、社外から見た一般的な側面がやや強く出た印象をもちますが、これからCSR活動を通じて議論を重ね、アンリツ独自の重要課題を引き続き追求していく所存です。

今回の経済危機の先は回復ではなく、おそらく全く違った世界になるでしょう。従業員の皆さんには「企業としていつまでも同じ形でいられるわけではない」と伝えています。この新しい世界秩序の中でどうすべきかを考え、世の中の変化を捉えて活かし、オリジナリティのある存在になることが重要です。そのため、従業員一人ひとりが各自の「達成像」を描き、希望のシナリオを作りたいと要請しています。それらが集結したとき、アンリツの独自性を発揮した「達成像」に到達するものと信じています。

アンリツ株式会社
代表取締役社長

戸田 博道

>>[トップメッセージ\(4/4\) 経営理念・経営ビジョン・経営方針の説明図](#)

トップメッセージ(4/4)

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

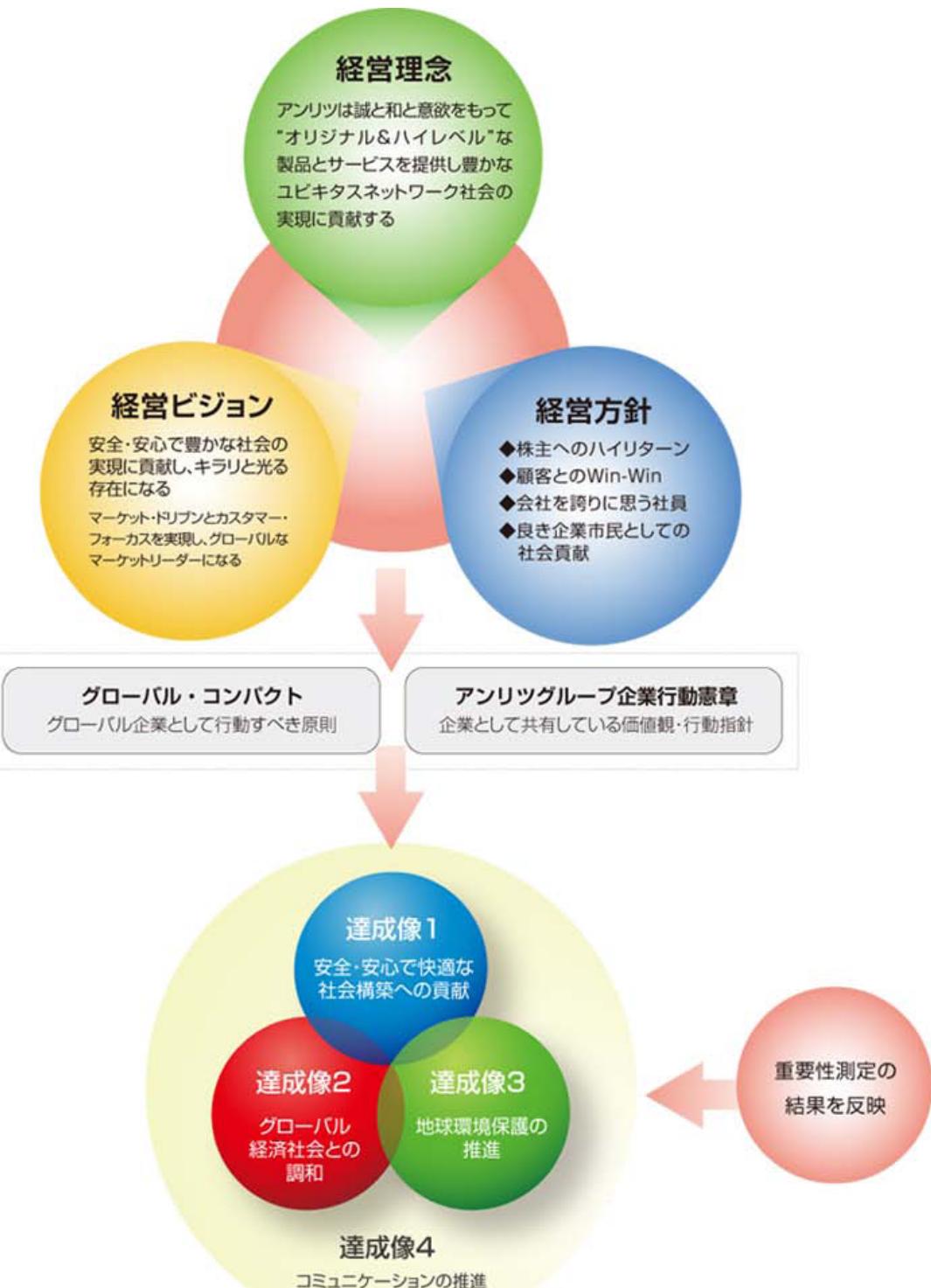
CSR報告書 アーカイブ(PDF)

経営理念・経営ビジョン・経営方針

アンリツは、経営理念・経営ビジョン・経営方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示すグローバル・コンパクト、および具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、CSR活動を推進しています。

関連リンク

- 経営理念・経営ビジョン・経営方針
- アンリツグループ企業行動憲章
- アンリツグループ行動規範



> トップメッセージ (1/4) 「誠と和と意欲」を持って他社にない高度な技術力を磨くへ戻る

▲ページ先頭へ戻る

CSRマネジメント

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

本業によるCSR

アンリツグループは、『誠と和と意欲』を掲げた経営理念のもと、法令・倫理・社会規範の遵守をベースに、本業によるCSRを通して経済・社会・環境面の企業責任を果たします。また、コミュニケーションによってステークホルダーの皆さまとのより良い関係を構築し、企業価値およびブランド価値の向上を目指します。



CSRの推進体制

2004年11月に発足したCSR推進委員会では、社長が委員長を務め、経営トップ自らがCSR推進を牽引しています。また、多岐にわたる部門の活動を統一的に推進するために、専従部門としてCSR推進室を組織しました。現在はコーポレートコミュニケーション部CSR推進チームとなり、CSR推進委員会の事務局を務めCSR推進委員会の方針のもとアンリツのCSR活動を推進しています。

CSRは一部門、一組織だけで実現できるものではなく、アンリツ全部門、グループ会社の協力なくして成功はありません。そこで、実効ある活動を進めるために、CS・品質・人権・社会貢献など、CSRの各領域を主管するアンリツ(株)の担当部門を中心に、グループ会社と横断的な連携をとり、CSR推進チームが事務局となって活動を推進しています。各領域についてCSRの視点で現状を把握・分析し、今後アンリツとして充実すべき課題の解決に取り組んでいます。



▲ページ先頭へ戻る

CSRの考え方(1/2)

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

「達成像」実現に向けた 12 の重要課題と「4つのキーワード」

アンリツは、CSR活動の方向性をより明確化・具体化するための中長期的な計画「CSR達成像」を定めて活動しています。このたび「達成像」実現に向けて、CSR活動を事業活動と一体のものとして推進し、中長期的な企業価値向上につなげるため、CSR課題の重要性を測定しました。下図のような手順に従って、「12の重要課題」を把握し、さらにそこから議論を重ねて、達成像実現のコアとなる「4つのキーワード」を導き出しました。

142の要請項目を抽出

ステークホルダーからの要請項目

ステークホルダーにとっての重要性測定

各種ガイドライン類およびステークホルダーアンケートを参照

アンリツにとっての重要性測定

CSR推進メンバーへのヒアリング(30名)

12の重要課題を把握

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. お客様へのサービス | 7. 人権の尊重と多様性の推進 |
| 2. 企業ブランドの確立 | 8. 人材育成 |
| 3. 社会的課題への積極的対応 | 9. 労働安全衛生 |
| 4. コンプライアンスの定着 | 10. 社会貢献活動の推進 |
| 5. リスクマネジメントの推進 | 11. 環境経営の推進 |
| 6. サプライチェーンマネジメント | 12. ステークホルダーとのコミュニケーション |

4つのキーワードを導出

2 キーワード1
はかる技術で社会に貢献
オリジナル&ハイレベルな「はかる」
技術で社会に貢献する

2 キーワード3
ライフサイクルシギング
製品のライフサイクル全体を通じて環境に配慮する

2 キーワード2
従業員の成長実感
従業員一人ひとりが成長を実感できる環境をつくる

2 キーワード4
地域との密着
グローバルに各地域の特性に応じて、地域とのつながりを育てる

>>[CSRの考え方\(2/2\)重要性測定の手法と結果](#)

[▲ページ先頭へ戻る](#)

CSRの考え方(2/2)

CSR報告書2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

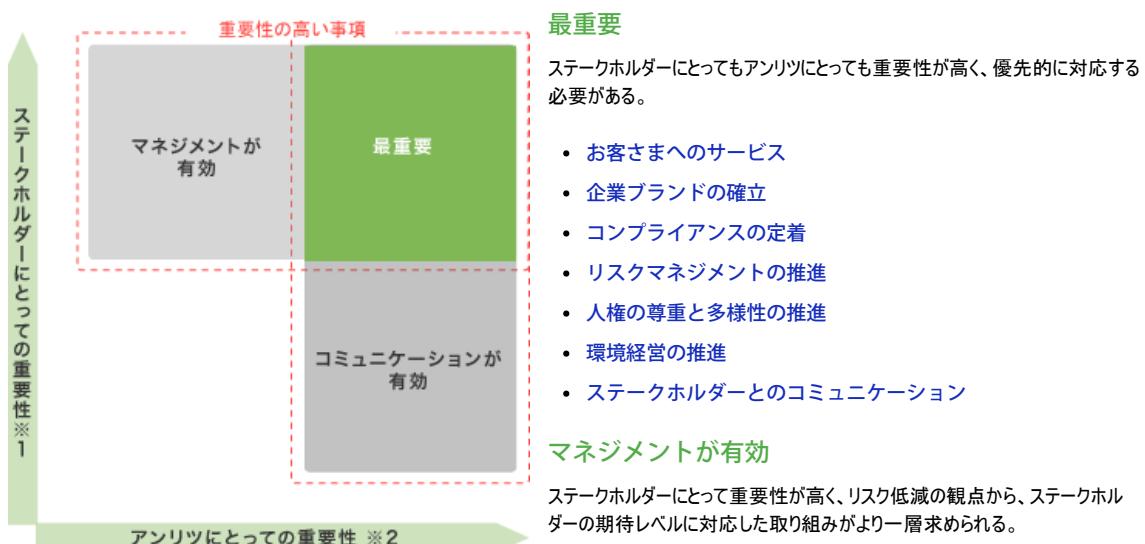
重要性測定の手法と結果

測定のプロセス

客観性と網羅性に配慮するため、まず、社会からの要請項目として想定される142項目を抽出。各項目の測定結果を、「ステークホルダーにとっての重要性(=社会の影響・関心度合い)(Y軸)、および「アンリツにとっての重要性(=企業価値への影響度合い)(X軸)の2軸でプロットしました。アンリツにとっての重要性について30名の従業員にヒアリングしたことは、事業活動の実態に則した課題意識を把握するだけでなく、重要性に対する主体的な気付きを醸成し、認識の共有化にもつながりました。

抽出された12の重要課題

測定の結果、142項目のうちでとくに重要性が高い領域(下図の赤枠部分)にプロットされた12項目を、アンリツにとっての重要課題とらえました。さらに、この領域を「最重要」「マネジメントが有効」「コミュニケーションが有効」の3つの領域に分類することで、具体的対策への手掛けりを得ることができます。



*1 各種ガイドラインや調査・格付機関の調査項目、および社内外のステークホルダーへのアンケート結果の中でも要請されている内容と頻度をもとに、10段階で測定。

*2 各CSR領域の責任者・担当者であるCSR推進部会およびCSR推進メンバー30名へのヒアリングを通して、中長期的な企業価値へおよぶ影響度を重要度5段階で測定。

注) 経済人会議日本委員会様の手法を採用しました。

最重要

ステークホルダーにとってもアンリツにとっても重要性が高く、優先的に対応する必要がある。

- ・ お客様へのサービス
- ・ 企業ブランドの確立
- ・ コンプライアンスの定着
- ・ リスクマネジメントの推進
- ・ 人権の尊重と多様性の推進
- ・ 環境経営の推進
- ・ ステークホルダーとのコミュニケーション

マネジメントが有効

ステークホルダーにとって重要性が高く、リスク低減の観点から、ステークホルダーの期待レベルに対応した取り組みがより一層求められる。

- ・ 社会的課題への積極的対応
- ・ 人材育成
- ・ 労働安全衛生

コミュニケーションが有効

自社にとって重要性が高く、社会的な認知を高めることにより機会の獲得(強み)になり得る。

- ・ 社会貢献活動の推進
- ・ サプライチェーンマネジメント

>>CSRの考え方(1/2)「達成像」実現に向けた12の重要課題と「4つのキーワード」

[▲ページ先頭へ戻る](#)

アンリツのCSR達成像

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献達成像2
グローバル経済社会との調和達成像3
地球環境保護の推進達成像4
コミュニケーションの推進2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

アンリツの CSR 達成像

このたびアンリツは、2006年に策定した「達成像」を見直しました。今後もその実現に向け、マネジメントの推進およびステークホルダーとのコミュニケーション促進の両面から、重要課題の取り組みを展開していきます。



達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツの姿

アンリツは、オリジナル＆ハイレベルな技術によって、みなさまの安全と安心を守るために貢献している。

従業員の姿

従業員一人ひとりが、お客さまの声を聞き、市場の期待を上回る品質の製品・サービスと迅速なサポートを提供している。

社会からの評価

そして、アンリツの技術に対する一定の評価を頂きつづけ、アンリツブランドの信頼を築いている。

<重要課題>

- お客様へのサービス
- 企業ブランドの確立
- 社会的課題への積極的対応

達成像2

グローバル経済社会との調和

アンリツの姿

アンリツは、グローバル展開において、各地域の文化や特性と調和した事業活動を行い、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしている。

従業員の姿

従業員一人ひとりが、コンプライアンスを意識し人権を尊重し、多様な属性・文化・価値観のもとで活き活きと働き、成長している。

社会からの評価

そして、地域に密着した社会貢献活動により、地域・社会との信頼関係を構築している。

<重要課題>

- コンプライアンスの定着 ■ 人材育成
- リスクマネジメントの推進 ■ 勞働安全衛生
- サプライチェーンマネジメント ■ 社会貢献活動の推進
- 人権の尊重と多様性の推進

達成像3

地球環境保護の推進

アンリツの姿

アンリツは、環境理念のもと、製品ライフサイクル全体を通じて、地球温暖化防止、循環型社会の形成、地球のクリーン化に取組む環境経営が定着している。

従業員の姿

達成像4

コミュニケーションの推進

アンリツの姿

アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的情報開示と対話をを行い、パートナーシップを構築している。

従業員の姿

従業員一人ひとりが、ステークホルダーからの期待に耳を傾け、積極

従業員一人ひとりが、エコマインドを高め、自身の業務に密着した環境活動を自立して実践している。

的なコミュニケーションを行い、相互理解を醸成している。

社会からの評価

そして、グローバル環境経営を推進し、地球環境保護に積極的に貢献する企業として社会から認知されている。

社会からの評価

そして、ステークホルダーに対してアンリツの姿を正しく伝え、アンリツに対する評価と信頼を築いている。

<重要課題>

■環境経営の推進

<重要課題>

■ステークホルダーとのコミュニケーション

[▲ページ先頭へ戻る](#)

お客さまへのサービス

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



お客さまへのサービス

企業ブランドの確立

社会的課題への積極的対応

アンリツは、お客さまに対するテクニカルサポートやクレームなどへの迅速な対応を重視しています。さらに、お客さまに安全と安心を提供できるよう、将来を見据えた戦略的なサポート体制およびグローバルな情報共有体制の構築も重視しています。

グローバルWebの構築

グローバルに事業を展開しているアンリツでは、世界のお客さまに同一のサービス・サポートを提供できるようWebの改善を進めてきました。このWebが2009年度後半よりデザインや操作性を統一し、多言語に対応したシームレスなグローバルWebとして生まれ変わります。これにより、製品情報の入手性、検索性が高まり、製品サポートページも改善されます。さらに、ソフトウェアや資料のダウンロードの検索性、操作性も向上します。グローバルWebでは、グローバルなお客さまの満足度を高め、より一層充実したサービス・サポートを提供することをめざし、公開後もお客さまの視点で改善活動を継続していきます。

グローバルサービス

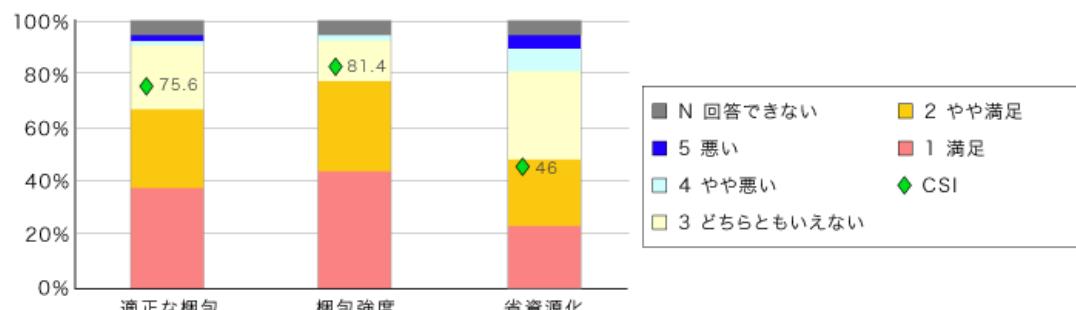
2006年度に発足したアンリツ計測器グループの「グローバル・カスタマーサービス委員会」では、グローバルに均一かつ高品質で、付加価値の高いカスタマーサービスを運営、提供することを目的に活動を続けています。2007年度に全サービスセンターで実施した顧客満足度調査結果でお客さまからご指摘頂いた改善すべき点は、サービスセンター毎に改善計画を立て、確実に実行しているかグローバル・カスタマーサービス委員会でモニターし、経営層に四半期毎に報告しています。その成果の一例とし、日本ではレンタル事業協会で実施した他社との比較において、総合点1位を獲得しました。また、米州地域のサービスセンターでは平均修理、校正日数を前年度比較で約1.5日(6.7日から5.2日)短縮しました。欧州地域でも同様な改善活動を実施しておりますが、成果としてはまだこれからです。

梱包改善

アンリツでは、「高性能、高品質な商品の提供」、「提案型営業の推進」、「納期改善」、「高品質な保守・サポート」、「環境保護の推進」に重点をおき、お客さま満足度向上に取り組んでいます。活動の一環として、毎年「お客さま満足度調査」を実施しており、その結果を分析し改善計画を立て実行に移しています。2008年度日本では、調査の結果要望の多かった「ホームページ」や「梱包」の改善等に取り組みました。「梱包の満足度」の設問に対して、梱包強度の満足度は高いものの、簡素化、廃棄物削減など環境面では多くの指摘を受けました。

そこで、CD-Rの取扱説明、証書などは、従来ダンボール箱に詰めて出荷していましたが、「エクスパック」という「ボル紙の封筒」を採用しました。また、部品、付属品などの小物品は、従来ダンボールの個装箱に入れさらに外装箱に入っていた形態から、新開発した個装箱のみで出荷するよう改善し、梱包の簡素化、廃棄物の削減を推進しました。このような環境負荷を低減する改善活動をはじめ、環境配慮型製品の提供など環境面においてもお客さまの満足度の向上を図っていきます。

「梱包の満足度」調査結果



※CSI (Customer Satisfaction Index): 顧客満足度指数。お客さまに商品、営業、納期、保守の4つの要素を評価していただき、その要素ごとの評価点を100点満点で算出した値です

「特定輸出者認定」を取得

■税関による厳しい審査を経て、認定取得

2008年12月1日、アンリツは日本で157番目の「特定輸出者」として横浜税関様から認定されました。特定輸出者制度は、膨大な国際物流において円滑な運営と国際安全保障の実現を両立させることを目的とする制度です。

本認定を取得するためには、法令遵守や内部統制などのコンプライアンス・プログラムの整備・業務手順の明確化と正確な実施等の運用状況の確認に加え、セキュリティ管理など、ハード面も含めた基準に合致しているかに関して、税関による厳しい審査に合格することが必要です。

アンリツは、2007年12月から、認定取得に向けた取り組みを開始し、輸出管理に関する業務手順の改善・オペレーションスキルの向上等運用状況を改善するとともに、不審者の立ち入り防止など、ソフト・ハード両面での改善を進めました。

そして、2008年7月に正式打合せを開始し、10月にはアンリツ本社と製造子会社である東北アントリツに対する横浜税関様による実査監査を終えた後、同年12月1日に横浜税関様から認定を受け、12月4日に通知書を拝領しました。

■安全・安心な国際物流の実現に向けて～官一民の、輸出国と輸入国の、お客さまとサプライヤーの、WIN-WINを目指して～

特定輸出者認定制度は日本独自のものではなく、WCO(World Customs Organization)のガイドラインに基づき、AEO(Authorized Economic Operator)と総称される同様の制度が世界各国で導入されています。

この制度の契機になったのは、「9・11」の米国同時多発テロ事件であり、さまざまな分野で大量破壊兵器などの拡散防止やセキュリティ確保のための取り組みが行われています。このため、AEOは、グローバルな国際物流管理の枠組みとして、制度を導入している国家間で相互承認が結ばれるなど、国際連携が進展中です。

日米間では、6月26日に相互承認が締結され、日本の特定輸出者に対して、米国での輸入に関してもベネフィットが与えられるようになりました。今後、EC(27ヶ国)とも早期に締結が見込まれ、認定者のベネフィットが拡大していくものと見込まれます。認定を取得した企業の輸出申告については、その申告内容が最大限尊重されます。

認定企業は、納期の短縮や輸出コスト削減という便益を享受する一方、従前にまして、自らの責任で輸出業務を遂行することになり、健全で効率的な輸出管理業務と安全・安心な国際物流の一翼を担うという極めて重い責任を果たしていくかなければなりません。

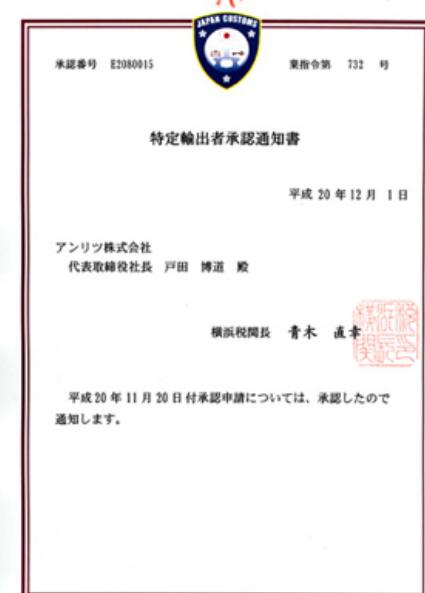
アンリツはこの責任を果たすために、今後もコンプライアンス・プログラム、リスクマネジメントの継続的な改善・強化を図り、安全・安心で快適な社会の実現に貢献いたします。

関連記事

>>従業員の成長実感 CS報奨制度、国内グループ導入から1年



認定証受領後に青木 直幸横浜税関長(左)と懇談



特輸出者承認通知書

企業ブランドの確立

CSR報告書2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

安全・安心で
快適な社会構築への貢献▶▶

グローバル経済社会との調和▶▶

地球環境保護の推進▶▶

コミュニケーションの推進▶▶

お客様へのサービス

企業ブランドの確立

社会的課題への積極的対応

携帯電話、超高速光通信、デジタル放送など、情報通信ネットワークは、日常生活のさまざまな場面に溶け込み、安全・安心で快適な社会を支える社会インフラの一つとなっています。そのマザーテクノロジーとなっているのが、アンリツの「はかる」技術です。

アンリツは、ネットワーク上を流れる電波や信号を試験する各種通信用計測器を開発。コミュニケーションの新たな扉を開く情報通信ネットワークづくりに貢献しています。



Key Word 1

はかる技術で社会に貢献

人間の目ではわからないことを知る技術

確かにつながり、確かに伝わる モバイルコミュニケーションを支える「はかる」技術

1980年代に登場して以来、急速な技術革新が進んでいる携帯電話。現在では、小さなボディにWebアクセス、音楽や動画のダウンロード、さらにはお財布がわりまで便利な機能が満載です。しかもその進化はとどまることなく、光ファイバ並の高速・大容量通信を可能とする次世代携帯通信システム「LTE(Long Term Evolution)」の商用サービスが2010年にも開始されます。

新たな方式の携帯電話が世の中に流通するまで、端末の試作開発、量産、ネットワークの建設・保守などさまざまな段階があり、その各々で正常な通信が行われているかどうかが試験されます。しかし、携帯電話の電波は目に見えません。ここで使用されているのが、アンリツの「はかる」技術です。

アンリツは、人間の目では見えない電波をグラフや波形で表示し、チェックする計測器を提供。試作段階で必要とされる信号づくりから擬似ネットワークの構築、量産段階での製造検査、街中を飛び交う電波の品質調査まで揃えた豊富なソリューションは、さまざまな場面で携帯電話の進化を支え、快適なモバイルコミュニケーションの実現に貢献しています。



快適なモバイルコミュニケーションの実現



▲ページ先頭へ戻る

海底から家庭に続く情報の道を支える「はかる」技術

インターネットの人気コンテンツも動画に移り変わりつつあり、またテレビ番組を視聴できるサービスも登場しています。こうした高速大容量通信サービスを可能にしているのが、海底から家庭まで張り巡らされた光ファイバです。

光ファイバは折れたり、曲がったりしただけで、信号品質が劣化します。また、夏になるとセミが卵を産みつけるために光ファイバに卵管を差し、断線の原因となっています。しかし、被覆された光ファイバの障害点を見つけ出すのは、人間の目では不可能です。

そこで、アンリツは、数千kmにおよぶ海底光ケーブルから家庭に引き



海底から家庭に続く情報の道づくりの実現



断線箇所の特定

込まれる数十mの光ファイバの障害点を簡単な操作で特定できる各種計測器を開発。海底から家庭に続く情報の道づくりに貢献しています。

まだまだ広がるアンリツの「はかる」技術

食の安全を守る、異物検出技術

異物の混入。ふだん口にする食品では、あつてはならない事故です。オートメーション化が進み、毎分100個ほどの商品が流れる生産現場で、いかに微小な異物を見つけるか。食品の安全と安心に直結するこの作業は高い信頼性が要求され、人間の目では不可能です。アンリツ産機システム(株)は、1ミリに満たない金属や骨などを検出できるX線異物検出機や金属検出機などを提供。食卓に安全と安心をお届けしています。



災害から人々を守る、映像配信技術

2008年6月に発生した岩手・宮城内陸地震では、大勢の市民が震災に苦しまいました。この地震で心配されたのが、土砂崩れによりできた河道閉塞(天然のダム)の決壊です。しかし、通行禁止区域などもあり、人力で状況を確認することが困難でした。そこで、映像配信技術を有するアンリツネットワークス(株)は、災害対策本部に遠隔監視システムを構築。河道閉塞周辺の状況を見守り続けました。



▲ページ先頭へ戻る

社会的課題への積極的対応

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献達成像2
グローバル経済社会との調和達成像3
地球環境保護の推進達成像4
コミュニケーションの推進2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



アンリツはグローバルな社会の要請に対して、事業を通じて積極的に対応していくことを重視しています。

国連グローバルコンパクトへの賛同

グローバル・コンパクト（GC）の原則と関連記事の対照表

アンリツが、2008年度に実施したCSR活動を国連グローバル・コンパクトが掲げる10原則に照らして整理すると、以下のようになります。なお、2007年行ったアンリツのGCへの報告は、「Notable COP(特筆すべき活動報告)」に選定されました。



※ グローバル・コンパクト（Global Compact）：人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。

1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・ナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

グローバル・コンパクト10原則		2008年度の主な取り組み	該当ページ
共通	グローバル・コンパクト10原則全体	<ul style="list-style-type: none"> 財務報告にかかる内部統制システムの有効性を確認しました。 コンプライアンス推進施策として、[1]アンリツ行動規範の周知徹底、[2]階層別教育をはじめとする社内教育・啓発、[3]倫理アンケートを通じたさまざまなリスクの回避、[4]社内外のヘルplineによる、社内の倫理法令違反の防止より働きやすい職場環境を目指しています。 	リスクマネジメントの推進 コンプライアンスの定着
人権	原則1	<ul style="list-style-type: none"> 取引先に対し人権保護の法令遵守を依頼しました。 従業員に対し倫理アンケートを通してハラスメントの実態を調査しました。 職場における労働安全衛生を確保する活動を実施しました。 	サプライチェーンマネジメント コンプライアンスの定着 労働安全衛生
	原則2	<ul style="list-style-type: none"> 取引先に対して人権侵害に加担しないよう確保すべきである。 	サプライチェーンマネジメント
労働基準	原則3	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスを図るため、従業員の要請に基づき労働環境の整備に努めています。 	人権の尊重と多様性の推進
	原則4	<ul style="list-style-type: none"> 取引先に対して強制労働への加担禁止を依頼しました。 	サプライチェーンマネジメント
	原則5	<ul style="list-style-type: none"> 取引先に対して児童労働への加担禁止を依頼しました。 	サプライチェーンマネジメント

	原則6	雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	・ 採用のボーダレス化を進めました。	人権の尊重と多様性の推進
環境	原則7	企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、	・ エコファクトリーおよびエコオフィスの活動を推進しました。 ・ 環境会計を継続的に実施しました。	エコオフィス、エコファクトリー 環境会計(2008年度)
	原則8	環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、	・ エコマインドの活動を推進しました。 ・ 地球温暖化防止の取り組みを推進しました。	エコマネジメント、エコマインド エコオフィス、エコファクトリー
	原則9	環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	・ 環境配慮型製品の開発を促進しました。	エコプロダクツ開発
腐敗防止	原則10	企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	・ ケーススタディシート発行により、従業員を啓発しました。 ・ 調達方針にて倫理概念に基づく行動を依頼しました。	コンプライアンスの定着 サプライチェーンマネジメント

関連記事

>>企業ブランドの確立
はかる技術で社会に貢献

▲ページ先頭へ戻る

コンプライアンスの定着

CSR報告書2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



倫理・法令を遵守した健全な企業行動を推進するため、企業倫理・コンプライアンス推進体制を構築・整備し、倫理意識を向上させるためのさまざまな施策を継続的に実施しています。

企業倫理・コンプライアンス

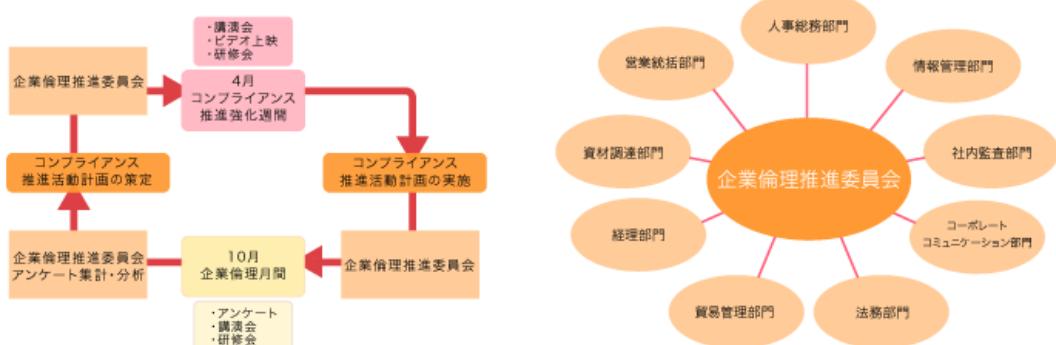
■ 継続的な改善活動(年間活動)

アンリツ(株)では、コンプライアンス推進体制の一環として、各企業倫理関係部門の代表で構成される企業倫理推進委員会を設置し、国内アンリツグループのコンプライアンス活動を企画・実施しています。特に、10月の「企業倫理月間」に実施する企業倫理アンケート結果を分析・考察し、年間の活動計画を策定、計画の実施確認、アンケートによる効果の確認を一年周期で行い、コンプライアンス活動の継続的な改善を図っています。

コンプライアンス推進活動

1年周期で企業倫理推進活動を行い、コンプライアンスの継続的な向上を図ることを目的とする。

企業倫理推進委員会構成



■ 二大イベント

4月に「コンプライアンス推進強化週間」、10月を「企業倫理月間」に設定し、ビデオ教育、外部講師による講演会、企業倫理推進委員会参加部門による研修や専門教育、国内アンリツグループの従業員、派遣従業員などを対象にした倫理アンケートなどを実施しています。

・ 研修・教育

・ 階層別教育(新入社員・新任幹部職等)

法令や規格などの専門知識を持ち、倫理意識や感覚を向上させる目的として、各種の教育啓発活動を実施しています。

・ 各委員会・部門による個別・専門教育

・ 外部講師による講演会(年2回)

・ ビデオ・DVDの貸出、上映

・ 企業倫理アンケート



コンプライアンス推進活動の有効性の確認や各組織での課題を抽出し改善していくため、国内アンリツグループの従業員、派遣従業員、協力会社従業員、サプライヤなど社内外を対象にした企業倫理アンケートを実施しています。アンケート結果は、分析・考察・検討され、今後のコンプライアンス推進活動計画の策定などに生かされます。また、アンケートに書かれた、緊急の課題には関係部門と連携して迅速に対応しています。

■ アンリツグループ行動規範・ケーススタディシートの発行

・ アンリツグループ行動規範

倫理法令遵守の観点から日頃とるべき共通の行動の指針として策定しています。国内アンリツグループのみならず、グローバル企業として海外アンリツグループ各社でも各国の法律や慣習に準拠した行動規範(Anritsu Code of Conduct)を策定するための支援をしています。2008年にはアンリツ・エマ・リミテッド(イギリス)とアンリツ・エー・エス(デンマーク)で新たに策定されました。

ケーススタディシート(事例集)

日頃の生活や業務のなかで発生した、あるいは発生する可能性のある具体的な事例を、毎月2テーマ選び、注意すべきポイントや解説を簡潔に記したケーススタディシート(事例集)として発行しています。インターネットへの掲載と社内へのポスター掲示を行い、各組織の朝礼などで話し合いをするための教育啓発ツールとして活用しています。

■独占禁止法等遵守内部監査

公正で自由な営業活動および取引が行われていることを確認するため、営業部門(地方拠点含む)を対象に営業活動状況・受注販売プロセスの内部監査(年1回)を実施しています。同時に、独占禁止法・下請法の教育も実施しています。

■ヘルpline

社内の倫理法令違反の未然防止、より働きやすい職場環境づくりを目指して、内部からの報告・通報・相談を受け付ける『ヘルpline』と、社外窓口(弁護士・カウンセラー)を設けています。また、社内の問題だけではなく、生活全般の法律相談を受け付ける法律相談日(月2回)を設けています。いずれの窓口も相談者のプライバシーは厳守されます。

コラム

コミュニケーションを通して企業品格を高める

ふじ合同法律事務所弁護士 岩渕 正紀 様



アンリツの経営理念である「誠」と「和」と「意欲」は、コンプライアンスの概念そのものだといえます。このような経営理念の下に企業倫理と法令遵守が位置するという構造に整理できますが、アンリツの従業員の方々にとっては、企業倫理を軸に置くほうがコンプライアンスを理解しやすいと思います。このように、コンプライアンスは単なる法令遵守に留まるものではありません。法令遵守は広範かつ詳細に亘るルールに対応するためにどうしても専門家の力を必要とします。一方で、企業倫理は個々人の企業人としての姿勢の問題であり、内から湧き上がってくるような高い志です。そのように理解すると、コンプライアンスに入りやすいと思います。上に立つ人、管理職には高い精神が要求されます。高い精神には、適度な余裕という意味での“アソビ”が必要であり、アソビを無くすことがコンプライアンスという今日的風潮は間違います。そして良い意味でのアソビを確保する点からも、上司と部下とのコミュニケーションが重要です。アンリツには、このようなコミュニケーションを通した日常的な業務・接触の中で、企業としての品格を高めていくことを期待しています。

▲ページ先頭へ戻る

リスクマネジメントの推進

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

**2008年度目標達成度、
2009年度目標設定**

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



アンリツは、内部統制システムの構築や情報セキュリティ管理の強化を通して、リスクマネジメントを推進しています。

内部統制システムの構築

■ 内部統制を通した経営革新に向けて

アンリツは、事業をグローバルに展開していくうえで、内部統制システムの構築は必要不可欠であると考えています。2009年3月までに、財務報告の信頼性を確保する体制を構築しました。今後は、内部統制システムを着実に根付かせ企業価値の向上につながる取り組みへとステップアップさせ、主要なオペレーションリスクに対する認識の共有やコントロールの設定を目指します。



■ 2008年度の取り組み

2008年度は金融商品取引法における財務報告に係わる内部統制報告制度の開始年度であるため、2008年4月、これまでの内部監査部門をグローバルオーディット室として改組し、グループ支援も含めた体制の強化を行いました。また、主要なグループ会社には内部統制を担うキーパーソンとして内部監査専任者を置き、各グループ会社の監査人主体での評価・監査を実施しました。

評価のプロセスにおいては、いくつかの不備が発見されましたが、内部統制委員会を通じて改善事項を共有し、適切な改善措置を行なった結果、2009年3月時点での全社的な経営理念や倫理観、会計方針や手続きの統制、IT基盤の統制、財務報告に関連する業務プロセスにおける統制について、国内外の子会社も含めたアンリツグループの統制状況は有効であるとの結論を得ました。

■ 今後の取り組み

今後は、これまでの内部統制システムの整備のプロセスで構築した国内外のグループ各社との連携関係を強化し、グローバルなリスクマネジメント体制の骨格を構築します。また、活動の範囲も財務報告に係わる部分にとどまらず、主要なオペレーションリスクに対する認識の共有やコントロールの設定をめざします。

近い将来には、目標達成の阻害要因だけでなく不確実性リスクも効果的にコントロールし、企業価値向上をめざします。

コラム

アンリツ・カンパニー・リミテッド(香港)における内部統制の取り組み

Emily Chu

Finance Director Anritsu Company Ltd.

Witty Wong

Assistant Internal Audit Manager Anritsu Company Ltd.



アンリツ・カンパニー・リミテッド(香港)は、アジア・大洋州地域(日本を除く)における計測器事業等の販社を統轄とともに、中国での計測器等の販売・保守を行っている会社です。2008年度は、抽出した重要度の高いリスク要因や内部監査計画に基づいて、我々監査チームが各ビジネスユニットに対して内部統制の全社方針、ガイドラインおよびJ-SOX法などを参照して評価・監査を実施しました。具体的には、財務、業務プロセス、コンプライアンスなど主要な内部統制やリスクに関する評価を行い、いくつかの不備や改善案を報告しました。

これを受け、各ビジネスユニットでは内部統制システムの強化をはかるため、方策や手順を整備し、実行に移しました。今後も継続的に、コンプライアンスの観点から各ビジネス計画の実行状況を監視し、円滑な業務遂行や財務報告の正確性の維持・向上に取り組んでいきます。

情報セキュリティ管理

アンリツでは情報セキュリティ管理のため、有効性評価とリスク管理のフレームワークを用いながらセキュリティ維持・向上への取り組みを継続的に実施しています。有効性評価においては多岐にわたる管理項目から、定量分析によって特に重要なものを絞り込み、決められたポリシーどおりに運営されているモニタリングして改善を行っています。またリスク管理においては環境や資産の変化に対応するために定期的にリスクの見直しを行い、リスク変化への対応を行っています。

■ 物理的セキュリティ施策について

2008年度は老朽化に伴う入退室管理システムの障害リスクと物理的セキュリティ向上に対応するために厚木地区の3箇所の敷地に対してICカードを用いた入退出管理システムのリニューアルを行いました。この施策により、災害時の安否確認もより正確かつ迅速にできるようになりました。

- 施錠管理ドアの追加（30か所→60か所）
- 退室側も施錠することで在室管理機能の追加
- 敷地の入出門にリーダを設置し、入出場時にリードすることで敷地内人員の確実な把握
- ログ情報の取得と保管
- ID統合管理システムとの連動によるリアルタイムの入退室コントロール



入退出管理システム

■ インターネットWebサイトのセキュリティ向上

アンリツグループでは日本も含めた海外の主要拠点毎に、インターネットにWebサイトを掲載して顧客に商品などの情報提供を行っています。その際、問題になるのはWebサイトのセキュリティ対策です。グローバルに統一されたWebセキュリティポリシーを策定し、その後、海外のサイトも含めた全てのサイトに対し、脆弱性診断を実施し、重大な脆弱性を無くすように改善を進めてきました。今後は、各国で設置しているサイトを1箇所に統合して管理することでさらなるセキュリティの向上を図ります。

■ パリューチーンにおけるセキュリティガバナンスの推進

昨今の企業活動においてお取引企業様との情報共有は不可欠なものとなっています。それに伴い社外へ情報が持ち出されるケースが増加し、情報の漏洩リスクが高まっているのが現状です。情報セキュリティの対策はお取引企業様も含めたパリューチーン全体での取り組みが必要です。アンリツでは昨年、お取引企業様約120社に対してアンケートを実施しました。その結果を踏まえお取引様にセキュリティ管理の徹底のお願いと教育を実施しました。

■ 従業員教育・啓発活動の推進

2008年度も引き続き、階層別従業員教育を実施し、啓発活動を推進しています。毎年実施している一般社員向け教育ではマイクロソフト様にお越しいただき、インターネットにおける脅威についてご講演いただき、多くの社員に聴講いただきました。また、1回/月、ケーススタディを発行し、情報セキュリティの啓発活動を行いました。



■ 情報システムのBCP活動

一度作成されたBCPは実機テストや計画のレビューを行しながらより確実のものにするため継続的に改善活動を続けています。その中でBCPの復旧時間をより確実なものにするために、システム全体を免震構造の建物へ移設する計画を策定し作業を開始しました。2008年度はCADシステムの一部を移設ましたが、2009年度は他の重要システムの移設を計画しています。

▲ページ先頭へ戻る

サプライチェーンマネジメント

[CSR報告書2009](#)[トップメッセージ](#)[CSRマネジメント](#)[CSRの考え方](#)[アンリツのCSR達成像](#)[達成像1](#)[安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)[達成像2](#)[グローバル経済社会との調和](#)[達成像3](#)[地球環境保護の推進](#)[達成像4](#)[コミュニケーションの推進](#)[2008年度目標達成度、2009年度目標設定](#)[事業概要](#)[第三者意見](#)[担当執行役員メッセージ](#)[編集方針](#)[アンケート](#)[CSR報告書 アーカイブ\(PDF\)](#)

取引先様との信頼関係を強化し、お互いの成長につなげていくことが重要と考えています。取引先様の参画により強固なパートナーシップを構築していくこと、さらにサプライチェーン全体で社会の期待・要請に答えていくことを重視しています。

取引先様へのはたらきかけ

■アンリツ資材調達基本方針および取引先様へのお願い事項

アンリツでは、今後社会的責任を果たしていくには、グループ内だけでなく取引先様も含めたサプライチェーン全体で活動を展開する必要であると考えています。2006年1月に「資材調達基本方針」を改訂し、さらに取引上において取引先様にお願いすべき事項についても明確に定め、2007年度は、国内外におけるグループ会社調達拠点での共通した「方針およびお願い事項」として統一化を進め、2009年度には「資材調達基本方針」に、「環境への配慮」を新たに追加します。

■資材調達基本方針

1. 取引先様の選定

公平かつ公正な考え方で、国内外を問わず常に新しい取引先様に広く門戸を開放し、品質・価格・納期、環境対応などを重点に、適正な基準でかつ客観的な立場でお取引先様を選定します。

2. パートナーシップ

すべての取引先様とは健全な取引を通じて相互に利益のある協力的な関係を築くことを前提としています。

3. 法遵守、機密保持

取引にあたっては、関係する諸法規を遵守します。またお取引を通じて、取引先様から得た情報を、承諾なしに第三者に公開いたしません。

4. 倫理概念に基づいた行動

調達業務にあたる者は、取引先様と個人的な利害関係を持つことなく常に公明正大な業務の遂行をはかり、お取引先様との健全な関係を持ち続けることを基本においています。

5. 人権と労働への配慮

当社は人権を尊重し、労働衛生と安全確保に取り組んでおります。
お取引先様にもご賛同いただき、サプライチェーンとして、推進します。若年労働者の使用や人種、性別による差別など人権上の問題があれば、お取引を見直すこともあります。

6. 環境への配慮

当社は「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部材や材料を調達するグリーン調達を推進します。

■お願い事項

1. 法令・社会規範の遵守

関連法規等の遵守、児童労働、強制労働、低賃金労働の禁止、差別の禁止

2. 環境への配慮

弊社グリーン調達ガイドライン、環境要求伝達事項等に沿った環境対応の実現

3. 優良な品質の確保、適正価格での提供、確実な納期遵守

4. 機密情報の漏洩防止および知的財産の尊重

5. 不測の事態への迅速な対応とタイムリーかつ的確な情報開示

アンリツ(株)では、サプライチェーンを機軸としたCSR活動の展開が必要であることから、予算説明会や担当執行役員名でのお願い通知などを通じ、取引先様に対して、上述した「調達基本方針」および「お願い事項」を理解・周知していただくことに努めています。そして、2008年度には、取引先様へのCSRに関する監査をすべく監査シート(和文・英文)を作成するなど、品質および環境監査とともに、CSRの監査をしていく環境・体制の整備を着実に進めています。

BCP(事業継続計画)への取り組み

SCM(サプライチェーンマネジメント)本部では主にサプライチェーンのBCPについて、災害・事故を想定して神奈川県厚木市のアンリツ(株)と福島県郡山市にある東北アンリツ(株)が連携する計画を策定しました。この計画では、従来から準備していた組織体制、重要業務の抽出、リスクと被害の想定などを盛り込みました。

関連記事

>>コラムより住みやすい環境を構築するパートナーとして
株式会社PALTEK PLDビジネスディビジョン セールスグループFSE 曾根 祥彦 様

▲ページ先頭へ戻る

人権の尊重と多様性の推進

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、 2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



グローバルな事業展開および働き方の多様化に伴ない、人権の尊重と多様性の推進はますます重要になっています。優秀な人材の採用や、組織のコミュニケーション活性化の観点からも、多様な人材が働きやすい制度・職場環境の整備を重視しています。

職場における人権の尊重

■従業員データ

アンリツ(株)従業員データ

		2006年度	2007年度	2008年度
従業員数 ()は幹部職数で内数	男性	980(232)	938(224)	745(167)
	女性	134(4)	136(4)	128(5)
	計	1,114 (236)	1,074 (228)	873 (172)
平均年齢	男性	41.8	41.7	40.4
	女性	34.6	34.9	34.8
	計	41.0	40.8	39.6
平均勤続年数	男性	18.3	18.1	16.6
	女性	12.2	12.1	12
	計	17.6	17.3	15.9
年間所定労働時間数		1,860.00	1,867.75	1,860.00
平均年次休暇取得日数		14.3	14.9	14.1
育児休職取得者数		10	8	14
雇用延長者数 (定年到達者の継続雇用)	対象者 数	15	24	30
	延長者 数	10	20	14

グローバルにみた女性の活躍状況

	日本	米州	EMEA	アジア 他	グローバル計
全従業員に占める女性従業員の比率 (女性従業員数/全従業員数)	13%	31%	22%	32%	23%
男性を100とした女性の幹部職登用率 (女性幹部職数/女性従業員数)/(男性幹部職数/男性従業員数))	9%	68%	97%	37%	52%

■ 障がい者雇用状況

過去3年の努力による法定雇用率達成も束の間、数名の障がいの方方が高齢や病状の悪化等を理由に退職され、2008年12月末の雇用率が1.59%と3年前の水準に逆戻りしてしまいました。このような中、採用活動は地道に継続し、2009年度は新たに一人の雇用を実現できる予定となっております。2009年度も障がい者と職場が相互に協力して能力を発揮できる職域の開拓の促進と継続的な採用努力により、改めて法定雇用率の達成にむけた努力を続けて行きます。

障がい者雇用3か年計画の進捗

	2005/12	2006/12	2007/12	2008/12
3か年計画目標雇用率(単独)	1.23%	1.43%	1.80%	----%
実績雇用率(単独)	1.31%	1.48%	1.84%	1.59%
参考:実績雇用率(国内連結)	1.27%	1.33%	1.57%	1.44%

■ 人権啓発活動の状況および今後の予定

人権啓発については、日常注意が必要な差別問題、セクハラ・パワハラ問題などに関する社内外の状況の理解促進に努める活動を行いました。

■ 両立支援の実施状況

今年度から新たな3カ年計画を策定し不足している制度の充実を図っていきます。

アンリツ(株)第2期次世代育成支援行動計画 計画期間(2008.4.1 ~2011.3.31)

目標	対策
男女共同参画の観点から、育児休職を希望する従業員が、男女ともに安心して育児参画できる環境を整備する。	「育児休職制度の拡充」等
一時的な保育への支援として、育児サービス利用者に対する利用料補助制度を拡充する。	「自治体のファミリーサポートセンター利用者に対する利用料補助の実施」
仕事と育児の両立がより一層図れるように、両立支援関連制度の周知および従業員への理解促進を行う。	「育児関連諸制度のガイドブックの作成・配布」等

■ 採用のボーダレス化

アンリツ(株)と国内グループ会社では、海外における大学主催のジョブフェアへの参加や日本国内における留学生の採用など、国籍にこだわらない採用を推進し、2008年12月末時点で27名が日本国内の職場で働いています。

コラム

より良い社内コミュニケーションに向けて

アンリツ(株)人事総務部 人事チーム 松尾 英介



海外赴任に関する業務、日本における外国人採用・教育および日常の人事的サポート等を担当しています。アンリツでは外国人の採用を積極的に進めていますが、入社後出来るだけ早く仕事に専念することができ、本来のパフォーマンスを発揮できる環境を整備していくことが重要だと考えています。会社のルールを理解しており、上司や同僚とのコミュニケーションが十分にあり、チームの一員としてのポジションを築けた上で、初めて仕事のやりがいや成長を感じることができます。まずは就業規則などの会社の基本的な規則類を英語化して配布するということから始めています。

私自身もなかなか上手く出来ていないのですが、外国人社員を受け入れる私達も、例えばゆっくり簡単な言葉で話す、簡単な文章にすると相手に配慮することと、反対に必要以上に特別扱いし過ぎないことが重要です。これらのバランスが上手くとれるようになり、国籍を意識しない風土がやしなわれることを期待します。

コラム

成長実感につながる職場環境

アンリツ(株)R&D統轄本部 第2商品開発部 Geoffrey Nicolas Fadera



フィリピンの大学を卒業後、アンリツに入社して1年半になります。携帯電話の新規格であるLTEへの対応やプログラム可能な大規模集積回路であるFPGAの設計に関する仕事をしており、10人からなるチームの一員として働いています。アンリツに対しては、テクノロジーが高いレベルにあるだろうという想いから興味を持ち、ここでなら自分が成長できるという期待がありました。フィリピン国内には計測器に係わるような高い技術力を持つ会社が少ないので、日本に来て実際に自分の技術レベルが向上し、今は成長を実感できるようになりました。

日本語によるコミュニケーションは難しいですが、仕事では皆さんとてもよく教えてくれますし、普段の生活では皆フレンドリーに接してくれます。1年半働いてみて、フィリピン人も日本人と同じように高いレベルの技術に対応できるということがわかりました。「アンリツに期待すること」は、フィリピンとの関係を一層深めて、技術力を持った人材や意欲のある人材が活躍できる場をたくさん提供してくれることです。私も続く仲間がどんどん増えていくって欲しいと思います。

▲ページ先頭へ戻る

人材育成

[CSR報告2009](#)[トップメッセージ](#)[CSRマネジメント](#)[CSRの考え方](#)[アンリツのCSR達成像](#)[達成像1](#)[安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)[達成像2](#)[グローバル経済社会との調和](#)[達成像3](#)[地球環境保護の推進](#)[達成像4](#)[コミュニケーションの推進](#)[2008年度目標達成度、2009年度目標設定](#)[事業概要](#)[第三者意見](#)[担当執行役員メッセージ](#)[編集方針](#)[アンケート](#)[CSR報告書 アーカイブ\(PDF\)](#)

アンリツは、従業員が仕事を通じて成長を実感できる環境づくりをめざしています。その一環として、従来から社長賞、営業表彰、功績表彰、特許表彰などの表彰制度を設けていますが、2008年、新たな報奨制度として「CS Award」を導入しました。この制度が、それぞれの立場でお客さま満足（CS）の向上に取り組む従業員の励みとなり、それがまたCSにつながることで、お客さま・従業員・アンリツがともに満足できる関係を構築・維持することをめざしていきます。



CS向上の取り組みを成長実感につなげる

アンリツは「お客さまから厚く信頼されるCS企業になろう」を行動指針としてCS向上をめざしています。そこで、2008年1月、CS推進部会の提案で「CS Award」を導入しました。これらの制度の本旨は、CS推進活動の一層のレベルアップですが、表彰されることで従業員が成長実感を得ることにも大きな意味があると考えています。表彰のきっかけは、お客さまの声（CSアンケート）、従業員による推薦（社内に設置したCSポスト）、部門内の上司・同僚からの申請（職場推薦）の3つで、いずれもCS推進部会で毎月評価・決定しています。CS AwardにはCS賞とCS貢献賞があります。CS賞は、お客さまに対する取り組みがCS向上に貢献したとき、およびお客さまからのご要望に対し、積極的に改善や開発・提案を行ったときに贈られます。CS貢献賞は、お客さまへの対応、またはCSアンケートのコメントで、個人名を上げてお褒めをいただいたときに贈られます。

企業価値向上の模範となる大賞

初年度（2008年1月～2009年3月）は、CS賞7件、CS貢献賞13件が表彰され、記念すべき第1回CS Award of the yearに輝いたのは、2008年4月にCS賞を受賞した、東北アンリツの全従業員。受賞内容は、東北アンリツを監査されたお客さまから「東北アンリツの皆さんのはいさつを励行されていて、とても気持ちがいい」とお褒めの言葉をいただいたことです。このあいさつ励行は、経営理念で謳う『誠』に通じ、アンリツの価値向上に貢献したことが高い評価されました。

2009年5月に東北アンリツで開催された授賞式では、100名ほどの従業員が参加。アンリツ（株）のCSR担当執行役員小熊 康之が、「この活動の継続によって、東北アンリツからアンリツ全体へ、お客さまへ、そして世界中へと『誠』の輪が広がり、社会に貢献できることを願っています」というメッセージとともに、従業員代表に賞状と盾を贈呈しました。

米国でも、CS表彰を実施

CS表彰を実施しているのは、日本ばかりではありません。米国のAnritsu Companyでは、日本より一足早く、2007年から、顧客満足の改善に貢献した社員を表彰するために、CAP（Customer Awareness Program）を導入しています。受賞者には副賞として、制度名のとおり、CAP（帽子）が贈られます。導入以来、日本の社員含め、32名がCAPに輝き、成長実感の醸成とさらなるCS改善意欲の向上につながっています。

アンリツは、今後も、社員の地道な活動にも光を当て、積極的に評価することによって、一人ひとりが成長実感を持って仕事できるよう、支援していきます。



(写真左)副賞のCapを贈られる受賞者
(写真右)副賞のCap(帽子)

■ 効率表彰

学理上の発見、発明などが社業の発展に寄与した場合に表彰

■ ハイパフォーマー賞

従業員の模範となる行動や成果をあげた場合に表彰。受賞者の中から委員会の審査を経て、優秀な案件には、ハイパフォーマー・オブ・ザ・イヤーを授与

■ 社長賞

社業に大きく貢献した従業員を表彰

■ 特許表彰

1. インベンター・オブ・ザ・イヤー
年間の国内特許出願件数が多かった従業員を表彰

2. パティント・マスター
登録特許件数が累積30件に達した従業員を表彰

■ 営業表彰

業績に大きく貢献した営業部門を表彰

Topics



黄綬褒章受賞者に社長賞授与

アンリツは、国内外のグループ社員を対象に、「社長賞」を授与しています。社長賞は、社長が社業に大きく貢献したと認められることが条件であり、アンリツ最高位の表彰制度です。それだけに極めて難易度が高く、2006年にAnritsu CompanyのStephan J. Vonderachが授与されて以来、社長賞を受賞した社員はいませんでした。今回、3年ぶりの社長賞受賞者となったのが、アンリツテクマック(株)の栗原 富栄。板金加工分野での卓越した技能と長年にわたる功績を評価され、2005年に「卓越技能者」として、厚生労働大臣賞を受賞しています。さらに2009年4月に、黄綬褒章を受章したことから、社長賞を受賞しました。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

労働安全衛生

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



従業員の「安全第一」と「健康保持増進」を安全衛生活動の基本理念とし、快適職場の維持に努めています。特に、メンタルヘルスケアと健康管理を中心に、従業員の健康のための環境整備を重視しています。

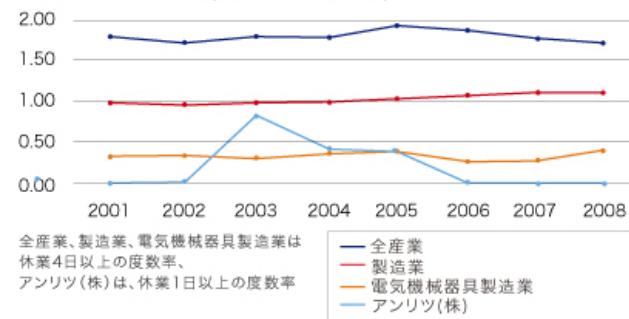
労働安全衛生

■ 安全衛生の取り組み

国内アンリツグループでは、労働安全衛生法に基づく安全衛生管理体制を確立し、主に次の取り組みを実施しています。

- 安全衛生委員会での活動状況の確認や災害防止策の立案
- 機械設備の導入・移動・変更時および化学物質購入時の事前審査による災害リスク低減
- 階層別教育やリスクアセスメント等の目的別研修を通じた安全衛生意識の高揚
- 作業環境測定や職場巡視による安全・安心で快適な職場づくり

労働災害度数率推移(100万時間当たり)



リスクアセスメント実務研修会



KYT(または交通KYT)研修会



消火器取扱訓練

■ 労働災害発生状況

国内アンリツグループでは、2008年度は、2007年度に引き続き休業災害「ゼロ」を達成しました。

また、アンリツ(株)厚木地区では無災害労働時間1,020万時間を2009年6月末に達成し、現在も更新中です。

■ 健康管理

国内アンリツグループでは、産業医、産業カウンセラーを中心とする産業保健スタッフが、全社員の健康に関して、主に次の支援活動を行っています。

- 健康診断の実施（定期、特殊、雇入時、海外派遣者）とフォローアップ
- 長時間残業者の問診票によるスクリーニングと産業医面談および健康確保措置の実施
- 生活習慣病予防等の健康啓発活動、メンタルヘルスケアを目的とする教育・カウンセリング



産業医講演会

コラム

言葉も心も双方向になるようなコミュニケーションの仕掛けづくり 社外産業カウンセラー／臨床心理士 康井 千恵子 様



アンリツ様とは2001年から社外産業カウンセラーとしてかかわっています。職場におけるメンタルトラブルは、本人の脆弱性よりも、「職場の機能不全」がそういう形をとった顕れたものであり、風通しが悪く本音がいいにくいう環境の中で、一番敏感な方がなりやすいといえます。コミュニケーションの不足と助け合いの欠如が原因です。問題が起きてからの対処は非常に難しいので、不調やちょっとした変化に自分で早めに気付いて自分を守るセルフケアの取り組みが重要です。そのために、普段から従業員一人ひとりの方と直接お会いして話を聞く「リフレッシュトーキング」を通じて、相談力を高め予防につなげる取り組みを行っています。「アンリツに期待すること」は、皆さん何でも気付いたことを相談して欲しいし、会社も相談しやすい環境をつくるって欲しいということです。全ての相談は会社に対する改善提案であるともいえます。言葉も心も双方向になるようなコミュニケーションの仕掛けづくりが必要だと思います。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

社会貢献活動の推進(1/2)

- CSR報告2009
- トップメッセージ
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2
グローバル経済社会との調和
- 達成像3
地球環境保護の推進
- 達成像4
コミュニケーションの推進
- 2008年度目標達成度、2009年度目標設定
- 事業概要
- 第三者意見
- 担当執行役員メッセージ
- 編集方針
- アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



アンリツが事業活動を行っていく上で、地域との良好な関係は欠かせない要素と考えています。青少年教育との連携、地域社会への貢献、環境推進活動の3つを柱とした地域密着型社会貢献活動を軸に、従業員が主体的に参画できる活動を継続的に展開していくことを重視しています。

青少年教育との連携

■ 厚木市教育委員会主催「おもしろ理科実験教室」:厚木市立飯山小学校

青少年の『理科離れ』や『科学・技術離れ』が指摘されている中、厚木市の呼びかけに応じ、子どもたちに豊かな体験をおして理科・科学に対する興味を高めてもらうことを目的とした「おもしろ理科実験教室」を近隣の飯山小学校で実施しました。電気の基礎知識を分かりやすく説明し、それを用いた実験やゲームを行ないました。

■ 神奈川県教育委員会:「家庭教育協力事業者連携事業」「親子ラジオ工作教室」

神奈川県教育委員会が神奈川県内の事業者に対して従業員の家庭教育力の向上をはかる目的として「家庭教育協力事業者連携事業」を推進し、アンリツもこの趣旨に賛同しています。「従業員の学校行事への参加」「従業員の子どもに従業員自らが働く姿を見せる」などの取り組みを行なっています。このひとつの取り組みとして、夏休み期間中に「親子ラジオ工作教室」を開催しました。このイベントは従業員の子どもにアンリツを理解してもらうとともに、親子で一緒に活動する機会を提供することを目的として実施されました。

■ 青少年の教育支援

アンリツグループは厚木市の近隣小中学校、高校、専門学校の教育実習支援の一環として、下記の活動を行なっています。

インターンシップは高校生、専門学校生を対象に、実際の職場において実務体験を通して社会人としての経験を積んでもらいます。2008年度は商業高校生が(株)アンリツプロアソシエで経理実務を体験しました。また、栄養専門学校生がアンリツ興産(株)の食堂関係部門での調理実習を体験しました。

職場体験学習では、3校の中学生にアンリツ興産(株)のリサイクルセンターでリサイクルされる機器を分解し、材料ごとに分別するリサイクル工程を体験しました。職場見学では、小・中学校の2校がアンリツ(株)本社を訪れ、普段見ることのできない、いろいろな職場を見学しました。



(左):職場見学の感謝状、(右):リサイクル体験実習

アンリツテクマック(株)は、職場体験や見学で訪れた生徒、学生に自社で作ったオリジナルの記念品を差し上げています。このことが話題になり小学校PTAからの要望に応え花壇用のプレートを進呈しました。

■ 国際学生会議:企業訪問プログラム

国際学生会議は1954年から毎年日本で開かれている、学生が主体の国際会議です。世界各国の学生が国際的な視野に立ち相互理解の関係を築くことが目的です。その取り組みの一つとして、13カ国30名の学生がアンリツ(株)とアンリツ産機システム(株)の製品展示室において、開発製品の紹介を受け、またアンリツ興産(株)のリサイクルセンターでは環境を配慮した製品の材料分別工程を見学しました。



(左):アンリツ興産(株)リサイクルセンター (中央):アンリツ産機システム(株)製品展示室 (右):アンリツ(株)製品展示室

■ 厚木市招待少年サッカー大会

「厚木市招待少年サッカー大会」は、一都五県から32チームが参加し、神奈川県屈指の規模を誇る大会です。アンリツは1995年からこの大会を後援し、大会運営をサポートしています。2009年2月の大会では、アンリツグループの社員が2名、出場チームのコーチとして参加しました。今後も、審判や写真撮影など、より多くの社員が個々の得意分野を生かしてボランティアとして関わることができるように呼びかけ、サッカーを通じた地域の皆さまとの密着を深めていきたいと考えています。

コラム

多くの従業員が参加できる社会貢献の推進

環境推進センター マネジメントシステム管理チーム 課長 多田聰



私は我が家の2人の子どもが所属する少年サッカーチームの指導に、ボランティアとして関わっています。特に小学生は社会生活を学ぶ重要な時期なので、子どもたちへの指導方法や接し方に悩むこともしばしばです。そんな苦労の反面、子どもたちが一生懸命ひとつひとつプレーする姿を見せてくれたり、ましてや結果として好成績を上げてくれたときは、指導している側としては、この上ない喜びを感じます。また、少年サッカーを通して地域の方々ともコミュニケーションが図れ、当社を知っていただけることもやりがいの一つです。今後は、多くの従業員が色々な形で社会貢献活動に参加する輪が広がっていくことを期待しています。会社として厚木市招待少年サッカー大会の後援をすることに留まらず、大会の企画、運営に多くの従業員が参加しやすい環境づくりを進めていくことが重要であると考えます。私も少年サッカーをはじめ、色々な社会貢献活動に積極的に取り組んでいきます。

■ 「ホシノドリームズプロジェクト」を通じ、インドの子どもたちにスポーツ用具を寄付

元日本代表野球チーム監督の星野仙一氏がチアマンを務める「ホシノドリームズプロジェクト」では、アメリカへのインターンシップ派遣や競技者への援助などさまざまな活動を通じて若者を支援しています。その一環として、物資に恵まれずスポーツに接することができないアジアの子どもたちにスポーツ用具を支援する活動を行っています。アンリツはこの活動に賛同し、社内の親交会体育班で不要になったバスケットボール、テニス、バドミントン、野球などのスポーツ用具を300点あまり寄付しました。これらのスポーツ用具は、ホシノドリームズプロジェクト事務局の協力団体である「NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」の現地スタッフを通じ、インドのベンガル州にある「マクタニール子どもの家」という養護施設に贈られました。NPOのスタッフによると、同施設には貧困状態から保護された2歳半から14歳の少年たちが暮らしており、贈られたスポーツ用具を使ってさっそく遊びはじめたとのことです。（詳細は<http://www.hoshinodreams.com/fukushi/yougu/india.html>）アンリツでは今後もこの取り組みを根付かせていきたいと考えています。



>>社会貢献活動の推進(2/2) 地域社会への貢献・環境推進活動

▲ページ先頭へ戻る

エコマネジメント、エコマインド

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



エコマネジメント、エコマインド

国内アンリツグループ
環境負荷マスマバランス (2008 年度)

環境管理活動の歴史

エコオフィス、エコファクトリー

サイト別環境負荷
マスマバランス (2008 年度)

エコプロダクツ開発

サイト別環境データ集 (2008 年度)

サプライチェーン
マネジメントの推進

環境会計 (2008 年度)

アンリツはグローバルに環境経営を展開し、一人ひとりの『エコマインド』で『エコオフィス』『エコファクトリー』『エコプロダクツ』の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。

アンリツグループ環境理念



アンリツは、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、誠と和と意欲をもって、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。

行動指針

一人ひとりの「エコマインド」で「エコオフィス」「エコファクトリー」「エコプロダクツ」を実現します。

環境マネジメントシステム (ISO14001)
の取得範囲を拡大するとともに環境監査の
充実やパフォーマンスの向上に努め、環境
に関するトップのコミットメントや実績情
報を地域の方々、株主および顧客等のス
テークホルダーに開示する

エコマネジメント

社員一人ひとりが役割を認識
し業務の中で環境改善を推進
し、社会的貢献をする社員に
なる

エコマインド社員

顧客を満足させる性能、品
質、価格を備えた一流の技術
のもとに、ライフサイクル全
体で環境に配慮し、かつ人の
感性を満たす製品を提供する

エコプロダクツ

オフィスの省エネルギー、廃棄物管
理、省資源等を実施して、環境改善に
努めるとともに、その機能を生か
し、エコプロダクツの提供とエコ
ファクトリーの発展に向けて支援す
る

エコオフィス

各プロセスにおいて法規制等の
遵守と環境リスクの低減を図る
とともに、省エネルギー、廃棄
物管理、省資源等の地球環境の
改善に努める

エコファクトリー

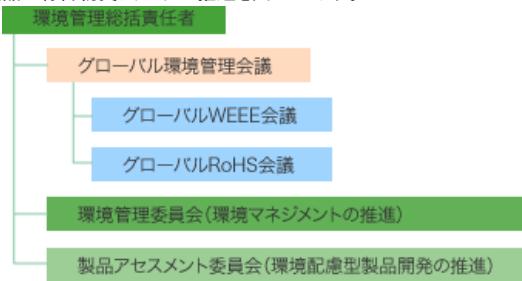
※地球環境保護の報告範囲は、アンリツ(株)および次のグループ会社です。

国内グループ会社: アンリツ産機システム株式会社、東北アンリツ株式会社、アンリツ計測器カストマサービス株式会社、アンリツデバイス株式会社、アンリツネットワークス株式会社、アンリツプレシジョン株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社、アンリツ興産株式会社、アンリツテクマック株式会社、株式会社アンリツプロアソシエ

海外グループ会社: Anritsu Company(アメリカ)、Anritsu Ltd.(イギリス)、Anritsu A/S(デンマーク)

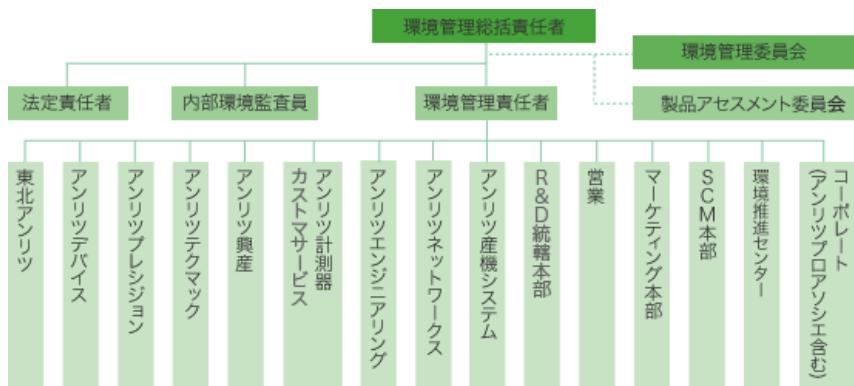
環境経営推進体制

欧州のRoHS指令やお客様の環境要求への対応など、グローバルな取り組みの必要性が増しているため、環境経営推進体制を2005年度に見直し、2003年に設置したWEEE対策部会、RoHS対策部会の上位機関として、環境全般の事項を審議・決定するグローバル環境管理会議を設置しています。日本国内では、環境管理委員会、製品アセスメント委員会およびRoHSステアリングコミッティーがあり、それぞれ環境マネジメントシステムの推進、環境配慮型製品開発の推進、製品の有害物質フリー化の推進を図っています。



環境管理組織(日本)

国内アンリツグループの環境管理組織は、環境管理総括責任者(アンリツ(株)執行役員 環境推進センター長)をトップとして、グループ会社を加えた体制で環境マネジメント活動を推進しています。



環境マネジメントシステム

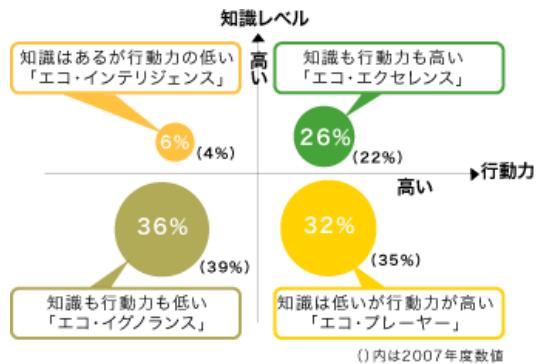
ISO14001取得状況

アンリツグループの主要生産拠点である日本、アメリカ(アンリツ・カンパニー)で環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001の認証を取得しています。2008年度は、アンリツ(株)のすべての営業拠点まで環境マネジメントシステムを拡大しました。なお、2000年3月に認証を取得したアンリツ・リミテッド(イギリス)は、製造部門がアンリツ・カンパニーに集約されたことにより、認証を返上しました。

登録会社	
アンリツ株式会社 本社	<ul style="list-style-type: none">・アンリツ株式会社(すべての営業拠点を含む)・アンリツ産機システム株式会社・アンリツ計測器カストマーサービス株式会社・アンリツネットワークス株式会社・アンリツエンジニアリング株式会社・アンリツ興産株式会社・アンリツブレシジョン株式会社・アンリツテクマック株式会社・株式会社 アンリツプロアソシエ・アンリツテバイス株式会社・東北アンリツ株式会社 <p>認証登録年月: 1998年8月 更新: 2007年8月 改訂: 2008年9月 認証機関: JQA/JQA-EM0210 (*)東北アンリツ株式会社は1999年10月に単独で認証済みでありましたが2003年に統合いたしました。</p>
東北地区 	
Anritsu Company (アメリカ) 	所在地: 490 Jarvis Drive Morgan Hill, CA 95037 認証登録年月: 2007年3月 認証機関: NQA/EN12275

従業員への環境意識調査

エコマインドの浸透度を測るために、国内アンリツグループの全従業員を対象に、第3回環境意識調査を実施しました。調査は、環境用語の把握度と環境行動に関する回答から環境に対する知識と行動のレベルの相関を分析し、前回と比較しました。回答率は、71%で2007年度(57%)より大幅に増加し、環境への関心は高まっています。また、環境知識が高く行動も環境に配慮できている「エコ・エクセレンス」の割合も、26%(2007年度22%)と増加しました。分析結果に基づき、回答率および「エコ・エクセレンス」割合の向上のための教育・啓発を実施していきます。



[▲ページ先頭へ戻る](#)

エコオフィス、エコファクトリー

CSR報告書2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献達成像2
グローバル経済社会との調和達成像3
地球環境保護の推進達成像4
コミュニケーションの推進2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

安全・安心で
快適な社会構築への貢献▶▶

グローバル経済社会との調和

地球環境保護の推進

コミュニケーションの推進

エコマネジメント、エコマインド

国内アンリツグループ
環境負荷マスマバランス(2008年度)

環境管理活動の歴史

エコオフィス、エコファクトリー

サイト別環境負荷
マスマバランス(2008年度)

エコプロダクツ開発

サイト別環境データ集(2008年度)

サプライチェーン
マネジメントの推進

環境会計(2008年度)



オフィスや工場から排出するCO2、廃棄物、有害化学物質の管理・削減をさらに推進し、総合的な環境負荷低減に取り組んでいます。

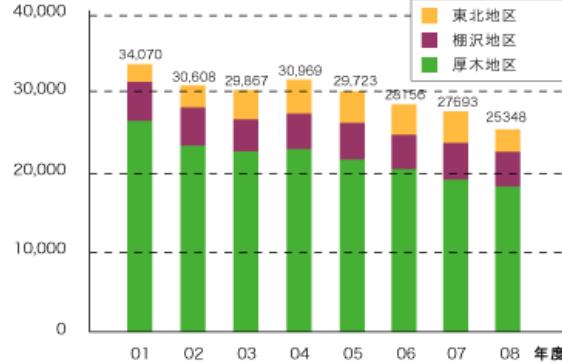
工場・オフィスでの省エネルギー活動

省エネルギーはCO₂排出量を削減し地球温暖化防止へ寄与する重要なテーマです。アンリツが消費するエネルギーの約96%(CO₂排出換算比)を占める電力の使用量を削減するため、継続的に省電力に努めています。

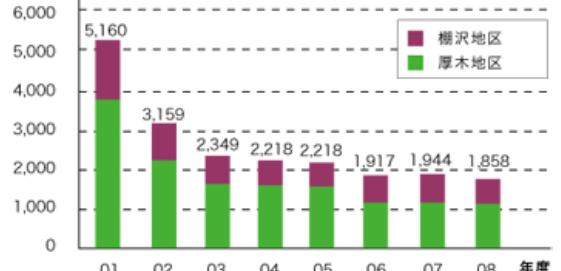
これまで蓄熱設備の導入、空調設備や照明設備のインバータ化、低損失型変圧器の導入、機器の省エネ機器への更新など設備面での対応を行ってきました。また、消灯や空調のフィルターの清掃をこまめに実施することなどで無駄な電力を削減し省エネルギーを推進してきました。また、2005年度からは、チーム・マイナス6%に参加し、クールビズ、ウォームビズ活動に取り組んでいます。2008年度は2007年度と比較して電気エネルギー使用量は8.5%削減となりました。

電気エネルギー使用量推移

MWh



工程系排水排出量

m³

水資源

厚木地区では、過去にプリント板製造、塗装、めっきなどの工程で大量の水を使用していましたが、2002年にはこれらの処理を全廃し、有害物質を含む工程系排水は大幅に削減されました。棚沢地区ではデバイスの製造工程で有害物質を使用していますが、工程管理により水の使用量を抑制しております。また、東北地区では有害物質を使用する特定施設はありません。

大気

厚木地区では、2000年に塗装工程を廃止したため、法、条例などの対象となる大気汚染に関わる施設はありません。東北地区では大気汚染防止法の対象である重油ボイラーがありますが、自主管理基準に基づいた管理のもとに運用し、大気保全に努めています。また、棚沢地区では法、条例などの対象となる大気汚染に関わる施設はありません。

騒音

設備導入前の事前審査制度、設備の始業時点検をはじめ、定期的な構内パトロールなどにより、異常な早期発見に努めています。また、年に1回定期的に敷地境界線の騒音測定を実施していますが、法、条例はもちろんのこと、自主管理基準の超過もありません。

法遵守状況

法や条例で規制があるものは、これより厳しい自主管理基準を設けて法遵守に努めています。厚木、棚沢、東北地区ともに基準に対し低いレベルで推移し、水質・大気・騒音などの法違反はありません。今後も定期的な保全活動により、法遵守はもちろんのこと環境負荷の低減に努めます。また、環境問題に関する訴訟、近隣からの苦情などはありませんでした。

地下水の管理

有機塩素系物質については、1970年にトリクロロエチレンを、1993年に1,1,1-トリクロロエタンの使用を全廃しました。しかし、厚木地区および東北地区では、地下水を採取する井戸を保有しているため、有機塩素系物質6物質の分析を定期的に実施し、監視を継続しています。2008年度も、厚木地区の井戸でテトラクロロエチレンに環境基準の超過がみられましたが、他は同基準を下まわっています。テトラクロロエチレンはアンリツでの使用実績がない物質であり、土壤分析でも当社による汚染ではないことが確認されています。今後も引き続き監視をしていきます。東北地区では、いずれも検出限界以下であり環境基準の超過がみられませんでした。今後も定期的な分析監視により、地下水の保全に努めます。

リスク対策

厚木地区では、無機系排水排出部門などからの排水を無害化するため、無機系排水処理設備を設置しています。2001年には、地中に埋設した槽が地震発生により壊れて、処理の完了していない水が漏洩し、土壤汚染を起こす可能性があることから、槽を二重槽に改造しました。2002年には、その設備の1つであるクラリファイヤータンク（前工程で生成した重金属を含む沈殿物を重力沈降で除去するタンク）の周辺に防液堤を設置し、地震などでタンクが破損した場合、タンクから漏洩した液が外部に漏洩せずに予備槽に流れ込む構造に変更しました。



クラリファイヤー

棚沢地区では、工程処理水のpHが法規制値を逸脱した場合、放流水の排出を停止させる緊急遮断弁が最終放流槽に設置されています。さらに、2003年には二重安全対策として、最終放流槽の前の槽にもpH警報装置を設置し、その時点で排水ポンプを停止するように改善しました。東北地区では、製造工程から出る水はありません。しかし、地震でボイラーなどから排出する水により、pHが法規制値を逸脱する可能性があることから、2001年にpHの監視装置と放流水の排出を停止する緊急遮断弁を設置し、対策を実施しました。



pH監視装置



緊急遮断弁

また、各地区では、人為的ミスや災害時に化学物質の漏洩事故が発生した場合を想定し、対応手順を作成しました。さらに、定期的な設備点検と訓練を実施し、万一の事故発生時に備えています。



緊急遮断弁の閉止



漏洩物の回収訓練

化学物質管理

国内アンリツグループ会社で使用する化学物質については、事前評価制度による使用可否を決定しています。また、法規制、有害性などから使用禁止・使用抑制物質を定め、オゾン層破壊や地球温暖化の原因となる物質の使用を規制しています。各部門では、3か月ごとに使用している化学物質の購入量、使用量、廃棄量を端末に入力し、法令ごとの集計や、PRTR法対象物質の集計に利用しています。

アンリツグループ使用規制化学物質

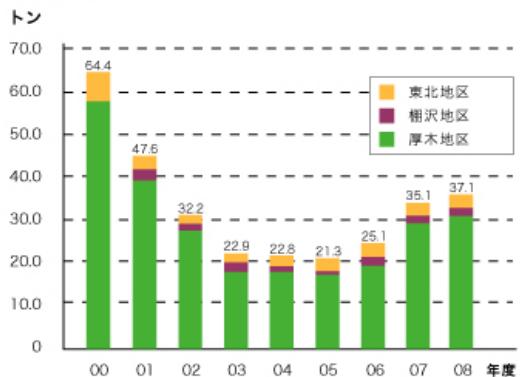
使用禁止物質	CFC (Chlorofluorocarbons), ハロン, 四塩化炭素, 1,1,1-トリクロロエタン, HBFC (Hydrobromofluorocarbons), ブロモクロロメタン, 臭化メチルの7物質群
使用抑制物質	HCFC (Hydrochlorofluorocarbons), トリクロロエチレン, テトラクロロエチレン, ジクロロメタン, HFC (Hydrofluorocarbons), PFC (Perfluorocarbons), SF6(六フッ化硫黄)の7物質群

化学物質オンライン入力画面

また、継続的に化学物質の削減に努め、過去には処理工程の廃止

などにより大幅な削減を達成してきました。2003年度からほぼ横ばいで推移していましたが、2006年度からエポキシ樹脂の使用量増加などの影響により、使用量が増加しました。

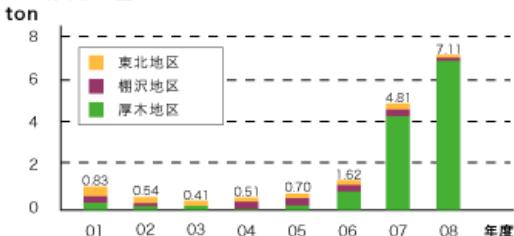
化学物質使用量推移



PRTR法

PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)については、厚木地区では、2006年からアンリツ産機システムの製品に使用しているエポキシ樹脂の充填作業を内作化したため、ビスフェノールA型エポキシ樹脂(液状)の取扱量が増加し、2008年度5,663kgと大幅増加し、法に基づき届出をおこないました。棚沢地区、東北地区では届出対象となる物質はありませんでした。今後も工程改善などを進め、PRTR法対象物質を含めて化学物質を削減し、環境汚染の防止に努めます。

PRTR物取扱い量



PCB管理

厚木地区ではポリ塩化ビフェニル(以下「PCB」)を含有した電気機器コンデンサ、蛍光灯安定器、感圧複写紙を特別管理産業廃棄物の保管基準に従って、厳重に管理しています。毎年、PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(「PCB特別措置法」)に基づき、県に保管状況を届出していますが、2006年の特高変電設備更新時の分析の結果、大型変圧器2台に微量のPCBを含有していることが確認されました。なお、2005年度に日本環境安全事業株式会社に処理の早期登録申込みを行っています。



PCB保管場所



保管コンデンサ

▲ページ先頭へ戻る

エコプロダクト開発(1/4)

CSR報告書2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



エコマネジメント、エコマインド	エコオフィス、エコファクトリー	エコプロダクト開発	サプライチェーンマネジメントの推進
国内アンリツグループ 環境負荷マスバランス (2008 年度)	サイト別環境負荷 マスバランス (2008 年度)	サイト別環境データ集 (2008 年度)	環境会計 (2008 年度)
環境管理活動の歴史			



製品環境規制にグローバルに対応し、すべての開発製品において設計の初期段階から質の高い製品アセスメントを実施しています。また、クリーン(有害物質の排除)・省エネルギー・省資源な環境配慮型製品の開発を積極的に進めています。

製品環境規制へのグローバル対応

欧州連合(EU)では2005年からWEEE指令、2006年からRoHS指令、2007年からREACH規則そして2008年から改正電池指令が施行されました。製品環境規制への対応は、猶予のない状況となっています。海外グループ会社とは、グローバル環境管理会議やメールを通じてコミュニケーションを図り、情報を共有化するとともに対応も統一化しています。また、製品設計段階で考慮しなければならないEuP(Energy Using Products)指令に対する事前の取り組みとして、グローバルで共通の製品アセスメント基準を作成し、海外拠点での環境配慮型製品の開発を推進しています。

■ 設計開発の段階から環境に配慮

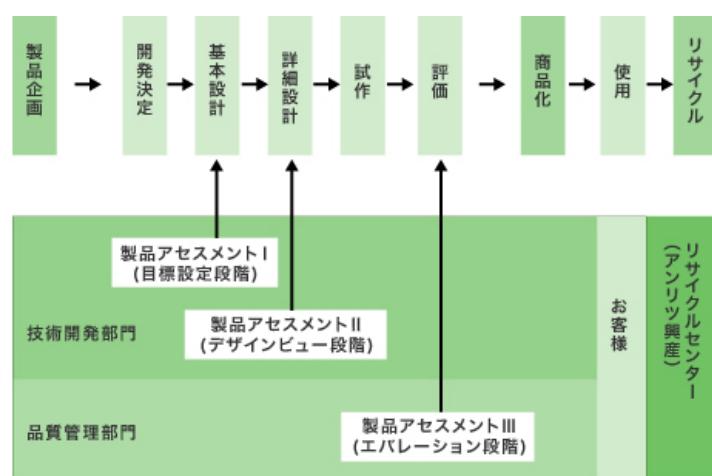
2008年度は国内アンリツグループの全開発製品の73%が環境配慮型製品となりましたが、目標の80%以上に達しませんでした。2009年度も引き続き環境配慮型製品の開発80%以上を目指します。

グローバル製品アセスメント実施ガイドライン

これまで、環境に配慮した製品の開発は、国内アンリツグループ会社では製品アセスメントとして、アンリツ・カンパニー(アメリカ)ではDfE (Design for Environment)として個別に取り組んできました。今後、アンリツグループ各社がグローバルに同一な基準で環境に配慮した製品開発を展開するため、2008年度はこれらの手法を統合しグローバル製品アセスメント実施ガイドラインを制定しました。

1) 運用手順

グローバル製品アセスメントは、製品の開発工程(設計、試作、評価など)に製品アセスメント(設計段階、設計審査段階、新製品評価段階)を組み入れ、開発製品の商品化前までに実施します。客観的かつ責任ある製品アセスメントとするため、品質管理部門などによる第三者評価や目標がクリアできない場合のフォローアップを実施します。



※製品アセスメントの各段階では、必要に応じてフォローアップを実施する。

2) 評価項目

グローバル製品アセスメントの評価は、基準製品との比較による体積、質量や消費電力などの改善性を評価する基本項目と省資源、有害物質の削減や製造、物流、使用、廃棄における環境負荷削減の取り組みを評価する評価項目からなります。

主な評価項目

省資源化/製造時負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> ・体積、質量の削減 ・リユースやリサイクル可能な部材の採用 ・機能拡張性、長寿命化 ・取扱説明書への再生紙の使用 ・消耗品の削減 ・加工困難材の削減 ・製造時廃棄物の削減
有害物質削減	<ul style="list-style-type: none"> ・含有禁止物質の非含有 ・製造時の使用禁止物質の不使用 ・RoHS指令対象物質の削減 ・その他有害物質の削減
物流負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> ・包装箱の体積、質量の削減 ・包装材のリユースやリサイクル可能な材料の採用 ・包装材の種類の削減 ・包装用樹脂部品への材料名表示 ・包装材の有害物質の削減 ・無包装や通い箱の採用
使用時負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> ・動作時消費電力の低減 ・待機モード時消費電力の低減 ・使用時の騒音の低減
廃棄時負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> ・部品点数の削減 ・リサイクル困難材料の削減 ・ユニット構造の採用 ・ねじ本数の削減 ・一般工具による分離分解 ・樹脂部品への材料名表示 ・材料種類の削減、同一材料への統合 ・電池のリサイクル表示 ・WEEE指令対応 ・中国版RoHS対応

製品アセスメント事例(1)

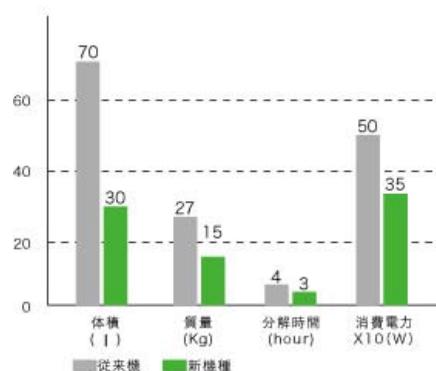
■省資源化

2008年度環境目標達成度 :

2008年度省資源改善率10%以上の機種は、国内アンリツグループにおける全開発製品の73%となり、目標の30%以上を大幅に超えました。MF6900Aフェージングシミュレータは、次世代移動体通信方式LTE(Long Term Evolution)の機能試験に必須となる複数伝送路伝播およびフェージング環境を高安定・高再現性で実現する装置です。

設計事例:

MF6900Aは、ハードウェアの規模が大きく且つ校正が必要なRF送受信部を不要とするとともに、フルデジタル設計により回路の大幅な集積化を実現して、省電力、省スペースを実現しました。また、有害物質や包装材料を削減し、廃棄時の負荷を大幅に軽減する省資源設計をしました。この結果、従来製品と比べ、体積・質量・分解時間・消費電力の平均改善率39%を達成しました。



MF6900A フェージングシミュレータ

製品アセスメント事例(2)

消費電力低減

2008年度環境目標達成度 :

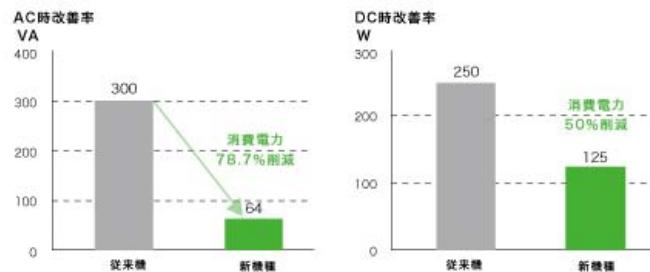
2008年度は、国内アンリツグループの全開発製品の55%が消費電力改善率30%以上となり目標の全開発製品の20%以上を達成しました。

設計事例:

NN6001A アナログ回線IP多重化装置は、音声帯域のアナログ回線サービスをIP網を通して提供できるクロスドメイン装置です。従来の制御盤や警報盤等を1ユニットに集約し、端末側は用途に合わせて任意に選択可能なラインカードにしました。電源の二重化や非同期網でのデータスリップが起こらない性能があり、伝送装置として高い信頼性を実現します。従来製品に比べて消費電力をAC時では78.7%，DC時では50%、質量も57.1%削減しました。



NN6001A アナログ回線IP多重化装置



主な改善内容:

- 伝送部に最新の低電力型DSPを採用したことにより、電力消費を低減。
- 端末部に業界初の超低消費電力型FPGAで回路集約し、使用部品数を大幅に削減。
- 電源部は高効率化電源（ファンレス構造）を採用し、端末機器への駆動電力を使用時のみ供給することで無効電力の削減。

[製品環境規制へのグローバル対応\(1/4\)](#) | >> [エコ製品制度\(2/4\)](#) | >>[使用済み製品のリサイクル\(3/4\)](#) | >>[Key Word3 ライフサイクルシンキング\(4/4\)](#)

▲ページ先頭へ戻る

エコプロダクト開発(2/4)

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

[CSR報告書 アーカイブ\(PDF\)](#)



安全・安心で
快適な社会構築への貢献▶▶

グローバル経済社会との調和

地球環境保護の推進

コミュニケーションの推進

エコマネジメント、エコマインド

国内アンリツグループ
環境負荷マスバランス (2008 年度)

環境管理活動の歴史

エコオフィス、エコファクトリー

サイト別環境負荷
マスバランス (2008 年度)

エコプロダクト開発

サイト別環境データ集 (2008 年度)

サプライチェーン
マネジメントの推進

環境会計 (2008 年度)



エコ製品制度

環境配慮型製品

アンリツグループでは、グローバル製品アセスメントの結果から、エクセレント エコ製品とエコ製品を環境配慮型製品と認定しています。

エクセレント エコ製品:

評価点が80点以上で、エクセレント エコ製品の条件を満たした製品

エコ製品:

評価点が60点以上で、エコ製品の条件を満たした製品

アセスメント実施製品:

アセスメント実施製品の条件を満たした製品



エクセレント エコ製品の主な環境配慮基準

- ・業界をリードする環境配慮性がある
- ・製品に関する環境情報を開示できる
- ・製法アセスメント(製造段階での評価)を実施している
- ・LCA(Life Cycle Assessment)を用いてCO₂排出量を評価している
- ・製品の事業主体および主要生産拠点は、環境マネジメントシステムを構築している

エクセレント エコ製品には、カタログなどにマークと製品に関する環境情報を併記しています。



エクセレント エコ製品

エクセレント エコ製品（販売中の製品）

<p>ハンディ エリアテスター ML8760A</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>	<p>ネットワークマスター ドロップケーブル フォルトロケータ MT9090A, MU909011A</p>  <p>小型・軽量</p>	<p>シグナルアナライザ MS2690A/91A/92A</p>  <p>小型・軽量</p>
<p>ラジオ コミュニケーション アナライザ MT8820B</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>	<p>ラジオ コミュニケーション アナライザ MT8815B</p>  <p>軽量・省電力</p>	<p>シグナルクオリティ アナライザ MP1800A</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>
<p>シグナルクオリティ アナライザ 4スロット シャーシ MT1810A</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>	<p>サービステスター MT8510B</p>  <p>軽量・省電力</p>	<p>ベクトル信号発生器 MG3700A</p>  <p>軽量・省電力</p>
<p>シグナリングテスター MD8470A</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>	<p>重量選別機 KW6412BF12/ KW6412BP12</p>  <p>省電力</p>	<p>デジタル移動無線送信機テスター MS8609A</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>

エクセレント エコ製品（製造中止品）

<p>レーザガス検知器 SA3C15A 製造中止機種</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>	<p>アクセスマスター MT9080シリーズ 製造中止機種</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>	<p>光デュアルアクセス伝送装置 EC2060A/EC2061A 製造中止機種</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>
<p>ネットワークパフォーマンステスタ MP1590A 製造中止機種</p>  <p>小型・軽量</p>	<p>IPネットワークアナライザ MD1231A 製造中止機種</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>	<p>サービスステータ MT8510A 製造中止機種</p>  <p>小型・軽量</p>
<p>データクオリティアナライザ MD1230A 製造中止機種</p>  <p>小型・軽量・省電力</p>		

製品環境規制へのグローバル対応(1/4) | >>エコ製品制度(2/4) | >>使用済み製品のリサイクル(3/4) | >>**Key Word3** ライフサイクルシンキング(4/4)

▲ページ先頭へ戻る

エコプロダクト開発(3/4)

CSR報告書2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



エコマネジメント、エコマインド

国内アンリツグループ
環境負荷マスバランス (2008 年度)

環境管理活動の歴史

エコオフィス、エコファクトリー

サイト別環境負荷
マスバランス (2008 年度)

エコプロダクト開発

サイト別環境データ集 (2008 年度)

サプライチェーン
マネジメントの推進

環境会計 (2008 年度)

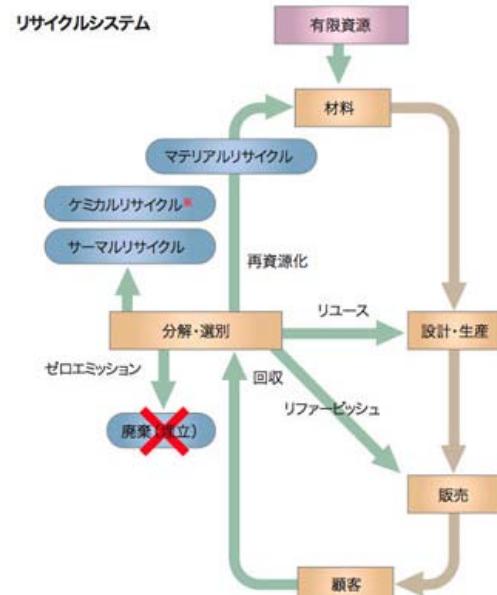


使用済み製品のリサイクル

リサイクルセンター

アンリツ(株)は、計測器業界に先駆けて2000年にグループ会社のアンリツ興産株式会社にリサイクルセンターを設立しました。2002年9月には産業廃棄物処分業許可を取得し、2003年度から業務を開始しています。2005年度からは使用済み製品のリユースを推進しました。廃棄物の分別を徹底し、リサイクルセンターから排出される廃棄物は、100%リサイクルされました。

また、デモンストレーションに使用した機器などの中から選りすぐったものを再生させたリファービッシュト計測器の販売を行っています。「再生」といっても「生みの親」アンリツ(株)のもとで修理・校正を行った信頼性の高い製品であり、納入後1年間の保証ができます。リファービッシュト計測器は、日本国内の大学・教育機関を対象とし、グループ会社のアンリツ興産株式会社を販売代理店として販売を行っており、製品の長寿命化に貢献しています。



製品環境規制へのグローバル対応(1/4) | >>エコ製品制度(2/4) | >>使用済み製品のリサイクル(3/4) | >>Key Word3 ライフサイクルシンキング(4/4)

▲ページ先頭へ戻る

エコプロダクト開発(4/4)

- [CSR報告2009](#)
- [トップメッセージ](#)
- [CSRマネジメント](#)
- [CSRの考え方](#)
- [アンリツのCSR達成像](#)
- [達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)
- [達成像2
グローバル経済社会との調和](#)
- [達成像3
地球環境保護の推進](#)
- [達成像4
コミュニケーションの推進](#)
- [2008年度目標達成度、2009年度目標設定](#)
- [事業概要](#)
- [第三者意見](#)
- [担当執行役員メッセージ](#)
- [編集方針](#)
- [アンケート](#)

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

達成像1
安全・安心で
快適な社会構築への貢献▶▶

達成像2
グローバル経済社会との調和

達成像3
地球環境保護の推進

達成像4
コミュニケーションの推進

エコマネジメント、エコマインド	エコオフィス、エコファクトリー	エコプロダクト開発	サプライチェーン マネジメントの推進
国内アンリツグループ 環境負荷マスバランス (2008 年度)	サイト別環境負荷 マスバランス (2008 年度)	サイト別環境データ集 (2008 年度)	環境会計 (2008 年度)
環境管理活動の歴史			

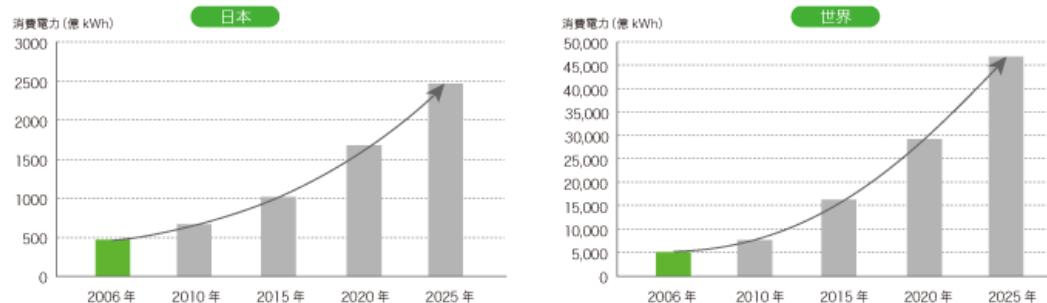
アンリツは、製品設計から部品調達、製造、出荷、お客までの使用段階、そしてリサイクルまで、製品ライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した取り組みを推進しています。環境経営の柱の一つである環境配慮型製品の提供を加速させるのはもちろんのこと、社会問題として急浮上しているIT機器の消費電力増加に対しても、独自技術を生かした取り組みを意欲的に進めています。



情報爆発時代のIT機器消費電力

文字情報に加えて音声や動画など格段に大きなデータが幅広くやりとりされるようになってきました。経済産業省の試算によれば、2025年のインターネットの情報流通量は2006年の190倍に上り、サーバやストレージ、PCなどIT機器が消費する電力量は2400億kWh(日本の総発電量の2割超)になると想定されています。また、中国やインドなどの通信インフラ整備拡充に伴い、世界全体では急激に消費電力が増大することが懸念されています(下図／経済産業省ホームページより)。

IT関連の消費電力の将来推計



省電力化のカギ、フォトニックネットワーク

IT機器の消費電力増大の原因となっているのが、データの行き先を制御する処理(ルーティング)。光通信システムでは、光信号を電気信号に変換した後、再び光に戻して送り出しており、この処理に電力が使われています。そこで注目されているのが、光を電気に変換することなくルーティングするオールフォトニックネットワーク。実用化されれば、消費電力を1/2～1/10に削減できると言われています。オールフォトニックネットワークの研究・開発では、伝送された光信号を光のままサンプリング(抽出)し、その品質を評価する光サンプリング技術が必須となっています。アンリツは世界の測定器メーカーに先駆け光サンプリング技術を確立。2015年頃に主要幹線網で整備される見通しであるオールフォトニックネットワークに向け、光サンプリング技術を利用した計測器の実用化を急ピッチで進めています。

測定高速化による駆動時間の短縮や ワンボックス化・小型化で省資源・省電力化

アンリツは、「省電力化」「省資源化」「クリーン化」を軸に環境配慮型製品を開発しています。そのキーワードになっているのが、測定の高速化」「複数機能のワンボックス化」「計測器自体の小型化」です。高速化の代表製品が、携帯電話の性能評価で使用されているシグナルアナライザ MS269xAシリーズ。従来機種で約30分要していた測定項目を1分以内でおこなえ、お客様の開発・製造現場の消費電力を約1/50に削減できま

す。シグナルクオリティアナライザMP1800Aシリーズは、2台の計測器で提供していた送信と受信機能を一体化(ワンボックス化)し、従来製品の70.0%の体積、66.7%の質量、70.8%の消費電力を達成しました。また、計測器の小型化においては、アメリカと日本の開発部門が共同でハンドヘルド計測器の開発に取り組んでいます。どこへでも簡単に持ち運べ、バッテリ駆動を実現した各種ハンドヘルド計測器は、環境に優しい計測器として、屋外・屋内を問わず、有線・無線通信ネットワークの建設・保守の現場で利用されています。

プラスチックを96種類に分別

アンリツ興産(株)では、計測器の再生販売に加え、廃棄製品のリサイクルをおこなっています。たとえばプラスチックの場合、一般的には36～40種類に分けます。しかし、アンリツ興産(株)では、できるだけ燃料ではなく原料としてリサイクルするため、人の手により、種類別・色別の96種類に分別。徹底したリサイクルをおこない、環境負荷低減を推進しています。

「グリーンIT元年」とも言われた2008年。IT業界は「IT機器の省エネ」「IT技術を活用した社会の省エネ」に向け動きだしています。アンリツも、「環境世紀」に生きる企業の責任として、「原材料」から「リサイクル・廃棄」までのライフサイクルを通じた環境負荷低減活動に注力してまいります。

[製品環境規制へのグローバル対応\(1/4\)](#) | >>[エコ製品制度\(2/4\)](#) | >>[使用済み製品のリサイクル\(3/4\)](#) | >>Key Word3 ライフサイクルシング(4/4)

▲ページ先頭へ戻る

サプライチェーンマネジメントの推進

CSR報告書2009
トップメッセージ
CSRマネジメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2008年度目標達成度、 2009年度目標設定
事業概要
第三者意見
担当執行役員メッセージ
編集方針
アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

エコマネジメント、エコマインド	エコオフィス、エコファクトリー	エコプロダクツ開発	サプライチェーンマネジメントの推進
国内アンリツグループ 環境負荷マスマバランス (2008 年度)	サイト別環境負荷 マスマバランス (2008 年度)	サイト別環境データ集 (2008 年度)	環境会計 (2008 年度)
環境管理活動の歴史			

グリーン調達



環境に配慮した製品を提供するためには、製品を構成する部品や材料などの環境負荷が低減されていることが不可欠です。アンリツでは「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部品や材料を優先的に調達するグリーン調達を全社的に取り組んでいます。

■ EMS支援(環境パートナー制度)

グリーン調達を行うためには、仕入先・協力会社(サプライヤ)自身の環境に対する取り組みも重要です。アンリツ(株)では、環境パートナー認定制度を設け、サプライヤの環境マネジメントシステム(EMS)の構築や製品アセスメントの実施状況について評価し、環境に積極的なサプライヤから環境に配慮した製品を優先的に調達するとともに、サプライヤの環境取り組みの推進を図っています。

サプライヤの評価は、AランクからCランクまでの3段階に分け、積極的に環境取り組みを推進しているAランクのサプライヤを環境パートナー企業として認定しています。また、B、Cランクと評価されたサプライヤに対しても、環境への取り組みを充実させるための協力支援を継続的に行ってています。

■ 有害物質の管理

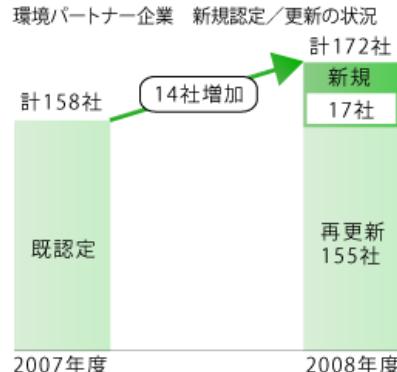
各国の製品含有化学物質規制に対応するため、国内アンリツグループでは2006年度からサプライヤを訪問し、製品含有化学物質管理体制の確認を行ってきました。2007年度は、機構部品／材料を取り扱うメーカー約100社について、現地確認を実施するとともに、サプライヤへの指導、支援を行い、サプライチェーン全体で製品に含まれる化学物質管理の強化に取り組みました。さらに2008年度はこの活動を拡大し、電気／電子部品を取り扱う商社を中心に約80社について、体制の確認を行ないました。

■ お取引先の皆さまへ

アンリツグループでは、環境に配慮した製品を開発するために、「アンリツグループグリーン調達ガイドライン」を制定し、環境に配慮された部品や材料を優先的に購入するグリーン調達活動を推進しています。

[アンリツグループグリーン調達ガイドライン【PDF形式：264KB】](#)

[条件付含有禁止物質に関する解説書【PDF形式：196KB】](#)



▲ページ先頭へ戻る

国内アンリツグループ環境負荷マスバランス（2008年度）

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

安全・安心で
快適な社会構築への貢献▶▶

グローバル経済社会との調和▶▶

地球環境保護の推進▶▶

コミュニケーションの推進▶▶

エコマネジメント、エコマインド

国内アンリツグループ
環境負荷マスバランス（2008年度）

エコオフィス、エコファクトリー

サイト別環境負荷
マスバランス（2008年度）

エコプロダクト開発

サイト別環境データ集（2008年度）

サプライチェーン
マネジメントの推進

環境会計（2008年度）

環境管理活動の歴史



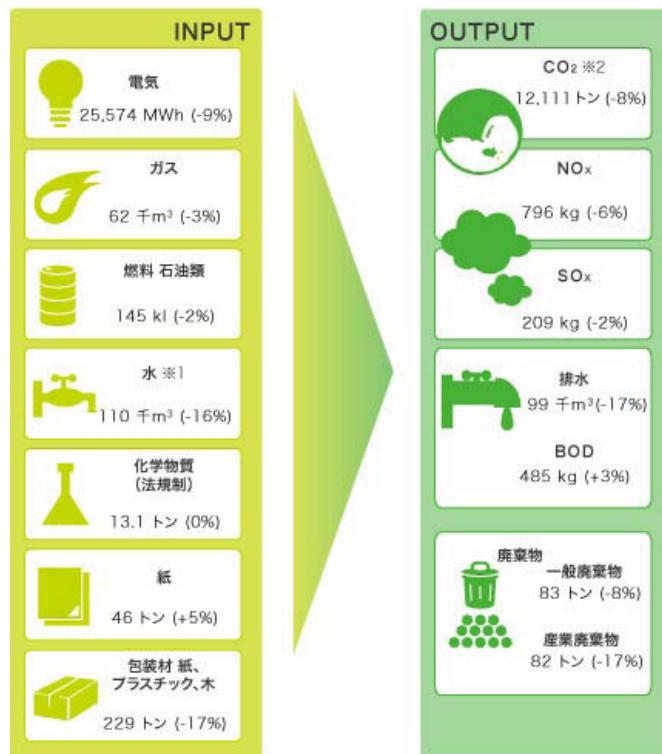
国内アンリツグループ環境負荷マスバランス（2008年度）

アンリツでは事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を貨幣単位・物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。また、それらを積極的に情報開示することで、環境に対する取り組みへの理解を深めていただけるよう努力しています。

環境負荷マスバランス

国内アンリツグループ(厚木地区+棚沢地区+東北地区)の事業活動による環境負荷マスバランスを示します。()内は2007年度比です。

環境負荷マスバランス: 事業活動と環境負荷の関連性をより明確に示すために、外部から企業内に持ち込まれる物質を物質名と物量で把握・表記し、企業から外部へ排出された物質と物量を把握・表記する対照表により、環境負荷を表したもの。



※1: トイレの小便器洗浄に人感センサー型を導入したことによる節水効果が主な要因です。

※2: 一部建屋の空調設備を省エネルギー型に変更したこと、および所定外労働時間削減強化によるエネルギー使用量の削減が主な要因です。

INPUT	電気： ガス： 燃料： 水： 化学物質： 紙： 包装材：	工場・オフィスなどで使用する電力会社からの購入電力 エネルギーとして使用する都市ガス エネルギーとして使用する重油、軽油 水道水、地下水（再利用水を除く） 法規制を受ける化学物質（毒物、劇物、危険物、有機溶剤、特定化学物質） 工場・オフィスで使用するコピー紙、EDP用紙 製品の包装・梱包材および物流時の梱包材
OUTPUT	CO₂ : NO_x : SO_x : 排水： BOD : 一般廃棄物： 産業廃棄物： リサイクル：	電気、ガス、燃料の使用に伴って発生する二酸化炭素（電気の使用に伴って発生する二酸化炭素の排出係数は、電気事業連合会公表値（2007年度実績値）を使用しました） ガス、燃料の使用に伴って発生する窒素酸化物 ガス、燃料の使用に伴って発生する硫黄酸化物 工場・オフィスの工程系排水および生活系排水 生物化学的酸素要求量 事業活動に伴って生じた産業廃棄物以外の廃棄物（厨芥物、紙くず、木くずなど） 事業活動に伴って生じた廃棄物のうち汚泥、廃プラスチック類、廃酸、廃アルカリなど「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に定められた廃棄物 廃棄物を熱回収（サーマルリサイクル）、再生利用（マテリアルリサイクル）により、資材、原料または資源として用いること

▲ページ先頭へ戻る

サイト別環境負荷マスバランス(2008年度)

CSR報告書2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



エコマネジメント、エコマインド	エコオフィス、エコファクトリー	エコプロダクツ開発	サプライチェーンマネジメントの推進
国内アンリツグループ 環境負荷マスバランス(2008年度)	サイト別環境負荷 マスバランス(2008年度)	サイト別環境データ集(2008年度)	環境会計(2008年度)
環境管理活動の歴史			

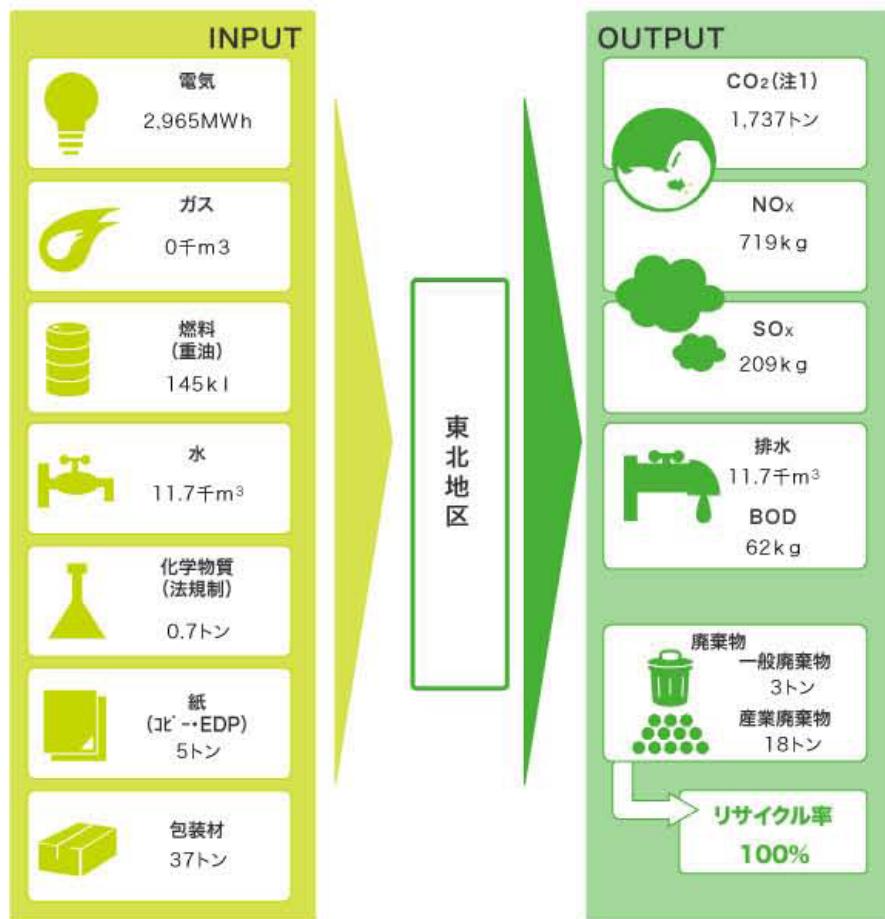
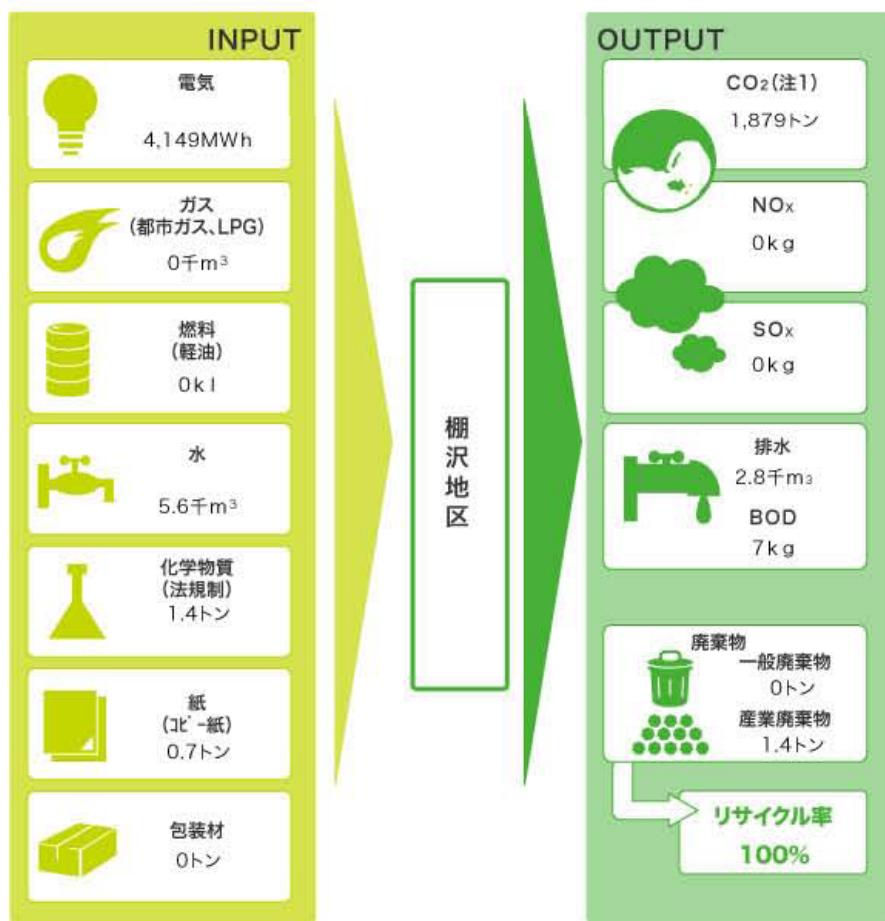
サイト別環境負荷マスバランス(2008年度)



アンリツ(厚木地区+棚沢地区+東北地区+アンリツリミテッド+アンリツカンパニー+アンリツA/S)の事業活動による環境負荷マスバランスを示します。

国内データ





注(1):CO₂排出量は、国内外のサイトいずれも「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令(2006.3.29改正公布)の換算係数を用いて算定しました。但し、電気の使用によるCO₂排出量は、電気事業連合会公表の換算係数(2007年度実績値)を使用して算定しました。

[>>海外拠点データを見る](#)

[▲ページ先頭へ戻る](#)

アンリツホーム

お問い合わせ

CSRホーム > 達成像3 サイト別環境負荷マスバランス(2008年度)

サイト別環境負荷マスバランス(2008年度)

CSR報告2009

[トップメッセージ](#)

CSRマネジメント

CSRの考え方

[アンリツのCSR達成像](#)

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、 2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



エコマネジメント、エコマインド

国内アンリツグループ
環境負荷マスバランス (2008 年度)

エコオフィス、エコファクトリー

サイト別環境負荷
マスバランス (2008 年度)

エコプロダクト開発

サイト別環境データ集 (2008 年度)

サプライチェーン マネジメントの推進

環境会計 (2008 年度)

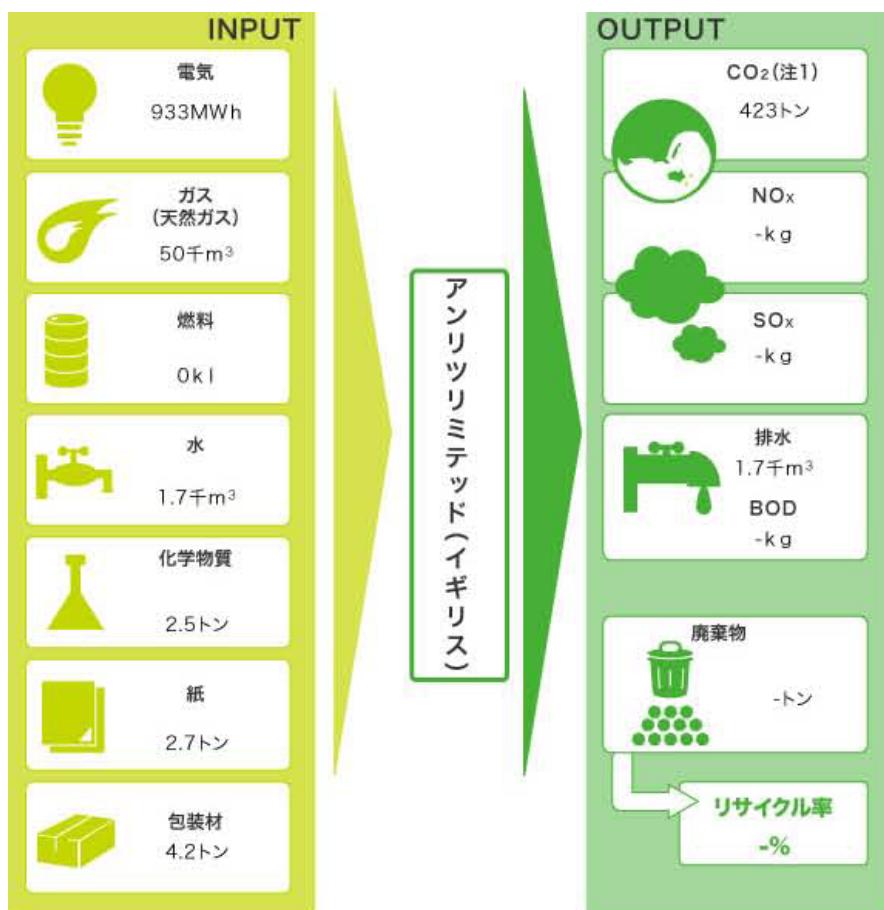
環境管理活動の歴史

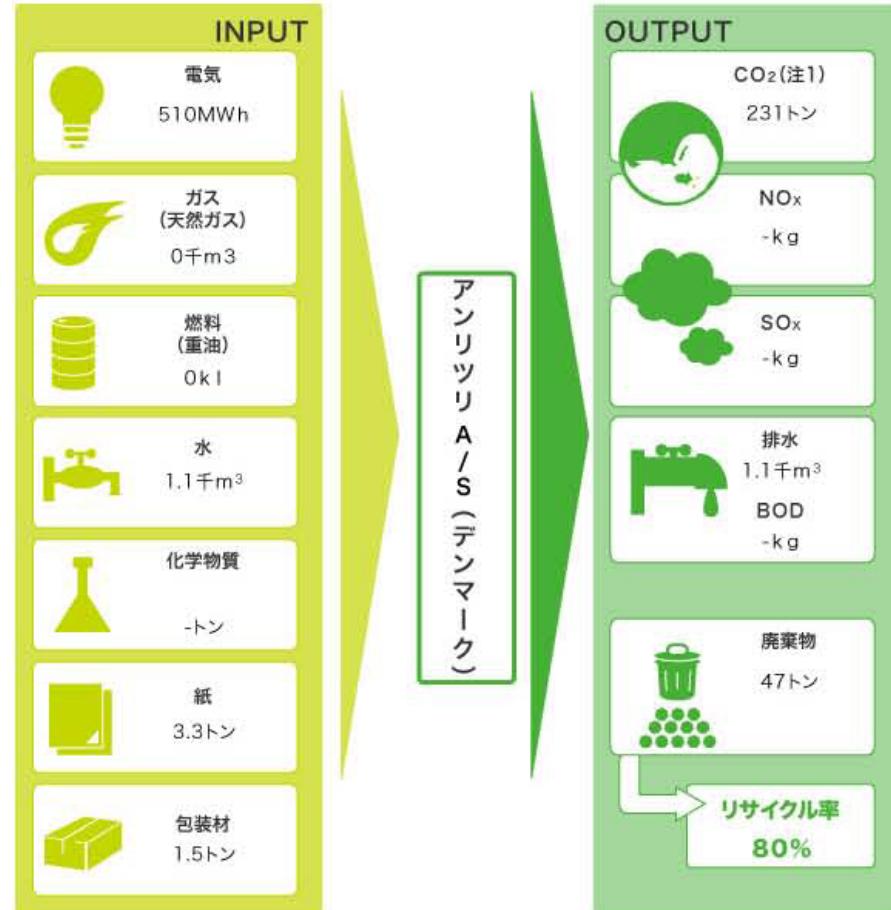
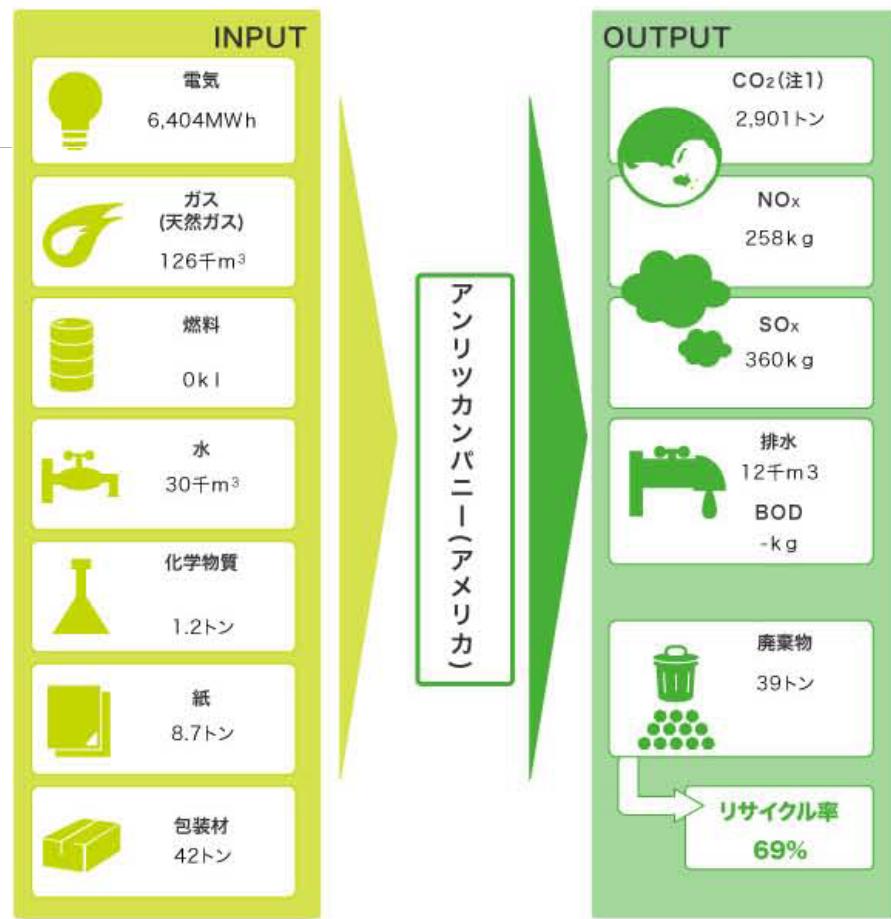


サイト別環境負荷マスバランス(2008年度)

アンリツ(厚木地区+棚沢地区+東北地区+アンリツリミテッド+アンリツカンパニー+アンリツA/S)の事業活動による環境負荷マスバランスを示します。

海外データ





注(1):CO₂排出量は、国内外のサイトいずれも「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令(2006.3.29改正公布)の換算係数を用いて算定しました。但し、電気の使用によるCO₂排出量は、電気事業連合会公表の換算係数(2007年度実績値)を使用して算定しました。

[»国内データを見る](#)

[▲ページ先頭へ戻る](#)



アンリツホーム

お問い合わせ

CSRホーム > 達成像3 サイト別環境データ集(2008年度)

サイト別環境データ集(2008年度)

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



エコマネジメント、エコマインド

国内アンリツグループ
環境負荷マスバランス (2008 年度)

エコオフィス、エコファクトリー

サイト別環境負荷
マスバランス (2008 年度)

エコプロダクト開発

サイト別環境データ集 (2008 年度)

サプライチェーン
マネジメントの推進

環境会計 (2008 年度)

環境管理活動の歴史



サイト別環境データ集(2008年度)

厚木地区

水質(公共下水道排出基準:法・厚木市条例)

		排出基準(mg/l)		実測値(mg/l)		
項目		規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH		5.7~8.7	6.0~8.4	7.4	6.9	7.9
SS		300	120	6.3	0.1	35
BOD		300	180	9.9	0.2	40.7
ノルマルヘキサン 抽出物質	鉱物油	5	3	0.6	0.1	2.2
	動植物油	30	18		*1	
よう素消費量		220	90	2.9	0.1	11
ふつ素化合物		8	4.8	0.2	0.1	0.4
シアノ化合物		1	0.4	0.04	0.02	0.10
全窒素		125	50	1.4	0.1	10.3
ほう素		10	4	0.2	0.1	0.3
全クロム		2	0.8	0.1	0.1	0.5
溶解性鉄		10	4	0.1	0.1	0.8
銅		3	1.2	0.1	0.1	0.3
亜鉛		2	1.2	0.2	0.1	0.6
溶解性マンガン		1	0.4	0.02	0.01	0.07
ニッケル含有物		1	0.6	0.14	0.02	0.32
鉛		0.1	0.06	0.01	0.01	0.02

*1. 鉱物油が自主基準値を超過した時測定

騒音(神奈川県条例)

測定箇所	規制値(dB)	自主管理基準(dB)	実測値(dB)
東側敷地境界線	70 (昼間)	68 (昼間)	53
西側敷地境界線			51
南側敷地境界線			47
北側敷地境界線			57

地下水

項目	環境基準値(mg/l)	実測値(mg/l)
トリクロロエチレン	0.03	0.028
テトラクロロエチレン *2	0.01	0.045
1,1,1-トリクロロエタン	1	0.0011
1,1-ジクロロエチレン	0.02	0.004
ジクロロメタン	0.02	定量下限値(0.002mg/l)未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	0.015

*2. テトラクロロエチレンは基準値を超過していますが、厚木地区における使用実績は有りません

棚沢地区

水質(公共下水道排出基準:法・厚木市条例)

項目	排出基準(mg/l)		実測値(mg/l)		
	規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH	5.7-8.7	6.0-8.4	7.5	6.9	7.8
SS	300	120	1.5	0.1	7.0
BOD	300	180	1.5	0.2	5.7
ノルマルヘキサン 抽出物質	鉱物油	5	3	0.8	0.0
	動植物油	30	18	*1	
よう素消費量	220	90	1.2	0.0	3.8
ふっ素化合物	8	4.8	1.2	0.4	1.7
シアソ化合物	1	0.4	0.1	0.1	0.1
全窒素	125	50	5.0	1.6	7.6
ほう素	10	4	0.1	0.1	0.2
全クロム	2	0.8	0.1	0.1	0.7
溶解性鉄	10	4	0.1	0.1	0.8
銅	3	1.2	0.1	0.1	0.1
亜鉛	2	1.2	0.1	0.1	0.2
溶解性マンガン	1	0.4	0.04	0.01	0.14
ニッケル含有物	1	0.6	0.09	0.05	0.15
鉛	0.1	0.06	0.01	0.01	0.01

*1. 鉱物油が自主基準値を超過した時測定

騒音(神奈川県条例)

測定箇所	規制値(dB)	自主管理基準(dB)	実測値(dB)
東側敷地境界線	70 (昼間)	68 (昼間)	56
西側敷地境界線			50
南側敷地境界線			47
北側敷地境界線			49

水質(水質汚濁防止法排出基準、福島県条例)

項目	排出基準(mg/l)		実測値(mg/l)		
	規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH	5.8-8.6	6.0-8.4	7.0	6.2	7.4
SS	70	30	3.5	0.0	7.4
BOD	40	20	5.1	0.1	15
溶解性鉄*3	10	4	0.07	—	—
銅*3	2	0.8	0.02	—	—
亜鉛*3	2	1.2	0.05	—	—
ニッケル化合物*3	2	0.8	定量下限値 (0.01mg/l) 未満	—	—
鉛*3	0.1	0.08	定量下限値 (0.05mg/l) 未満	—	—
大腸菌群数(個/m ³)	3000	2400	80	0	620

*3. 測定頻度が1回/年のため、最小、最大値は記載しておりません。

騒音(福島県条例)

測定箇所	規制値(dB)	自主管理基準(dB)	実測値(dB)
南側1敷地境界線			60
南側2敷地境界線	75	74	65
東側敷地境界線	(昼間)	(昼間)	43
西側敷地境界線			47

地下水

項目	環境基準値(mg/l)	実測値(mg/l)
トリクロロエチレン	0.03	定量下限値(0.002mg/l)未満
テトラクロロエチレン	0.01	定量下限値(0.0005mg/l)未満
1,1,1-トリクロロエタン	1	定量下限値(0.0005mg/l)未満
1,1-ジクロロエチレン	0.02	定量下限値(0.002mg/l)未満
四塩化炭素	0.002	定量下限値(0.0002mg/l)未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	定量下限値(0.004mg/l)未満

大気(大気汚染防止法、福島県条例)

項目	排出基準		実測値
	規制値	自主管理基準	
ばいじん(g/m ³ N)	0.3	0.18	定量下限値(0.005mg/l)未満
硫黄酸化物(m ³ N/h)	4.37	2.63	0.10
窒素酸化物(ppm)	180	170	108

[▲ページ先頭へ戻る](#)

環境会計 (2008年度)

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、
2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ (PDF)

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献 ►►►►

達成像2 グローバル経済社会との調和

達成像3 地球環境保護の推進

達成像4 コミュニケーションの推進

エコマネジメント、エコマインド	エコオフィス、エコファクトリー	エコプロダクト開発	サプライチェーンマネジメントの推進
国内アンリツグループ 環境負荷マスマバランス (2008 年度)	サイト別環境負荷 マスマバランス (2008 年度)	サイト別環境データ集 (2008 年度)	環境会計 (2008 年度)
環境管理活動の歴史			

環境会計：2008年度の実績



経営革新を推進する中、環境保全コストを抑制せざるを得ない状況もあり、2008年度の投資額は、対前年度比42.9%減少。費用についても、同27.9%の減少となりました。地球温暖化防止については、省エネ施設の投資額は昨年度と比較し減少しているものの、従来の省エネ活動(クールビズ、ウォームビズ活動など)に加え、所定外労働時間の削減強化などにより、CO₂削減量は昨年度の47.6%増(1,747トン-CO₂)となりました。

・集計範囲：国内アンリツグループ会社

・対象期間：2008年4月1日から2009年3月31日

環境保全コスト				効果*1	
大分類	中分類	投資額 (百万円)	費用額 (百万円)	経済効果 (百万円)	物量削減効果
事業エリア内 コスト	公害防止コスト (リスク対策含む)	0 [0]	9.9 [15.9]	0 [0.0]	
	地球環境保全 コスト	2.4 [4.2]	1.4 [18.4]	48.1 [43.4]	1,747 (トン-CO ₂) [1,184 (トン-CO ₂)]
	資源循環コスト	資源循環／活用活 動		4.2 [3.6]	24 (トン) [-] 〔廃棄物削減量〕
		廃棄物処理費	83.1 [75.7]	18.7 [18.1]	
上下流 コスト	グリーン購入／調達コスト		27.6 [41.5]		
	環境配慮型製品設計		23.7 [58.4]		
	製品・容器包装等リサイクル、回収、処 理		0.6 [2.1]	(26.6 [25.7]) *1	(726 (トン-CO ₂) [702 (トン-CO ₂)]) *1
管理活動 コスト	環境教育／人材育成		13.2 [21.4]		
	EMS運用・維持、内部監査		49.0 [72.5]		
	環境負荷の監視測定コスト		17.4 [24.2]		
	環境保全対策組織の人事費		23.7 [24.0]		
	緑化整備・維持		9.1 [10.6]		
社会活動 コスト	地域・環境保全団体等への支援		1.4 [1.2]		
	情報公開		10.1 [7.0]		
研究開発 コスト	環境負荷低減のための研究開発		4.4 [17.7]		

環境損傷 対応コスト	環境損傷対応のためのコスト		0 [0]		
	合計	2.4 [4.2]	307.4 [426.1]	71.0 [65.1] [26.6 (25.7)]*1	
	2007年度比	-42.9%	-27.9%	+9.06%	

*1:製品の使用時における環境負荷抑制効果(みなし効果)削減電力:1,770MWH [1,711MWH]

*2: []内の数値は、2007年度実績

[▲ページ先頭へ戻る](#)

アンリツ環境管理活動の歴史

CSR報告2009
トップメッセージ
CSRマネジメント
CSRの考え方
アンリツのCSR達成像
達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
達成像2 グローバル経済社会との調和
達成像3 地球環境保護の推進
達成像4 コミュニケーションの推進
2008年度目標達成度、 2009年度目標設定
事業概要
第三者意見
担当執行役員メッセージ
編集方針
アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



エコマネジメント、エコマインド	エコオフィス、エコファクトリー	エコプロダクト開発	サプライチェーンマネジメントの推進
国内アンリツグループ 環境負荷マスバランス (2008 年度)	サイト別環境負荷 マスバランス (2008 年度)	サイト別環境データ集 (2008 年度)	環境会計 (2008 年度)
環境管理活動の歴史			



アンリツ環境管理活動の歴史

- 2008年 ISO14001の認証取得範囲をアンリツ(株)営業拠点に拡大
- 2007年 「平成19年度かながわ地球環境賞」を受賞（厚木地区）
Anritsu Company (アメリカ) でISO14001認証取得
- 2006年 アンリツ・カンパニー (USA) がカルフォルニア州モーガンヒル市から2006 Excellence Awardを受賞
厚木地区廃棄物対策協議会会長賞受賞
- 2005年 東北アンリツ（株）が福島県主催のゼロエミッション活動提案コンクールの事業部門において優秀賞を受賞
第1回グローバル環境管理会議をアンリツ・リミテッド（イギリス）で開催
- 2004年 『アンリツグループグリーン調達ガイドライン』に改訂
国内アンリツグループの全開発・製造拠点でゼロエミッション達成
- 2003年 ISO14001の登録範囲を統合し、棚沢地区、厚木地区のグループ会社および東北アンリツ（株）を含める
- 2002年 社内の環境関連部門（環境管理部、環境技術部）を統合し、環境推進センターを設置
ISO14001の登録範囲を拡大し、棚沢地区および厚木地区のグループ会社を含める
リサイクルセンター・産業廃棄物処分業の免許取得
- 2000年 アンリツ・リミテッド（イギリス）でISO14001認証取得
アンリツエコ製品制度の制定
リサイクルセンター設立
- 1999年 『アンリツグリーン調達ガイドライン-製品開発用-』制定
東北アンリツ（株）でISO14001認証取得
- 1998年 厚木事業所でISO14001認証取得
関東通商産業局長から緑化優良工場として表彰
技術本部に環境技術グループ設置
鉛フリーはんだ委員会発足
- 1997年 環境方針制定
- 1996年 グリーン購入ネットワークに加入
アンリツ環境マニュアル制定
厚木事業所で大防法対象特定施設（灯油ボイラー）廃止
- 1995年 厚木地区廃棄物対策協議会会長賞受賞
- 1994年 厚木ZP委員会を厚木環境管理委員会に改組
製品アセスメント委員会発足
- 1993年 オゾン層破壊物質全廃（除く冷媒、消火器）
環境管理委員会発足
ニカド電池規制対応
環境理念および環境管理システム規程の制定
臭素系難燃剤の調査と対応
エネルギー対策専門委員会発足

- 1992年 環境保全設計調査WG発足
- 1991年 (財)日本緑化センター会長賞受賞
- 1990年 化学物質の購入・給配の一元化開始
厚木事業所総務部に環境管理課設置
- 1987年 厚木事業所で工程系配管の架空配管整備
- 1981年 神奈川県県央地区行政センターから環境保全功労表彰を受ける
- 1980年 神奈川県緑化モデル工場として表彰される
- 1979年 神奈川県環境保全協議会から環境保全優良工場として表彰される
- 1978年 雨水以外の排水を公共下水道に接続（厚木事業所）
- 1974年 廉房排水処理施設として活性汚泥処理方式施設導入
- 1970年 ZP (Zero Pollution) 委員会発足
- 1962年 化工工場開設に伴い排水処理施設設置（厚木事業所）

[▲ページ先頭へ戻る](#)

ステークホルダーとのコミュニケーション

[CSR報告書2009](#)[トップメッセージ](#)[CSRマネジメント](#)[CSRの考え方](#)[アンリツのCSR達成像](#)[達成像1](#)[安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)[達成像2](#)[グローバル経済社会との調和](#)[達成像3](#)[地球環境保護の推進](#)[達成像4](#)[コミュニケーションの推進](#)[2008年度目標達成度、](#)[2009年度目標設定](#)[事業概要](#)[第三者意見](#)[担当執行役員メッセージ](#)[編集方針](#)[アンケート](#)[CSR報告書 アーカイブ\(PDF\)](#)

安全・安心で
快適な社会構築への貢献▶▶

グローバル経済社会との調和▶▶

地球環境保護の推進▶▶

コミュニケーションの推進▶▶

ステークホルダーとの
コミュニケーション

地域社会との密着

達成像1～3の実現に向け、ステークホルダーとのコミュニケーションが欠かせません。そしてコミュニケーションにおいては、各ステークホルダーが求める情報を適切に伝えることが重要と考えています。

お客さま

アンリツは、お客さまに対するテクニカルサポートやクレームなどへの迅速な対応を重視しています。さらに、お客さまに安全と安心を提供できるよう、将来を見据えた戦略的なサポート体制およびグローバルな情報共有体制の構築も重視しています。

[>> お客さまへのサービス](#)

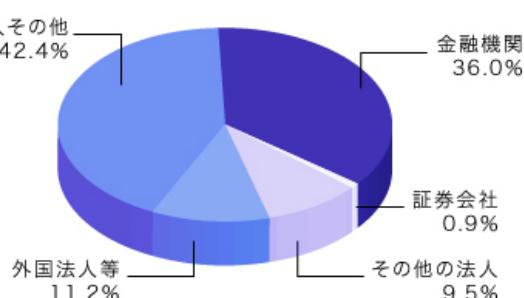
株主・投資家とのコミュニケーション

株主・投資家の皆様のニーズへの的確に応えるとともに、いただいたご意見を事業活動やIR活動の改善に役立てるために、双方向のコミュニケーションに努めながら積極的な情報開示を行っています。

株主の構成(2009年3月31日現在)

アンリツ(株)の株主数は、16,601人であり、発行済み株式の所有状況は、個人投資家が42.4%、国内金融機関が36.0%、外国法人等が11.2%となっており、個人投資家の割合が多くなっています。

株式の所有者別状況(%)



アンリツ(株)のIR(投資家向け広報)活動

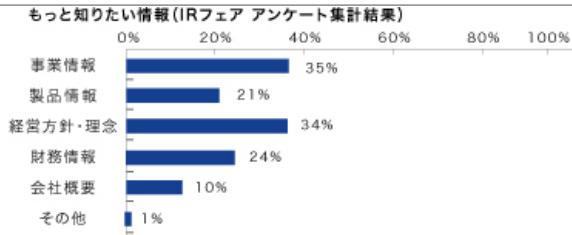
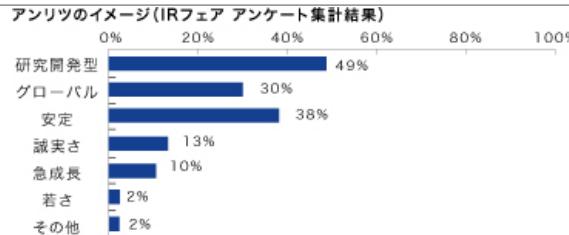
アンリツ(株)は株主・投資家とのコミュニケーションを通して、企業価値を適正に株価や株主還元へ反映させ、高い株主満足度の実現を目指しています。そのため、コーポレートコミュニケーション部IR推進チームが主体となり、『正しい情報を、その内容や開示環境の良し悪しに関わらず、関連法規に従い、誠意ある対応をもって公正かつ積極的に開示する』ことを方針として定め、国内外機関投資家への説明活動や個人投資家向け説明会への参加、株主懇談会の開催、アニュアルレポートや事業報告書等の各種刊行物の発行、ホームページを通じた適時情報開示、など多彩なIR活動を実施しています。

個人投資家向けIR活動の強化

アンリツ(株)は一般消費者とは直接の接点がない事業をグローバルに展開しているため、その事業構造や収益を創造する仕組み、業績に影響を与える要因を株主の皆さんに正しくご理解いただくことが非常に重要だと考えています。

そこで、国内外の機関投資家の皆さんへの継続的な情報開示に加え、株主・国内個人投資家の皆様とのコミュニケーションを積極的に行ってています。具体的には、株主総会に引き続いて株主懇談会を開催し、社長の経営戦略説明や製品展示ルームを活用した株主様と経営層との対面でのコミュニケーションを行いました。また、個人投資家向け説明会に参加し、社長による会社説明や個人投資家の皆さまとの対面によるご説明、さらにはアンケートなどを実施しました。頂戴したご意見やアンケート内容を分析し、開示ニーズの高い事業活動や経営戦略などを中心に説明会資料の充実を図りました。





外部評価

アンリツ(株)は、モーニングスター株式会社によるMS-SRI「モーニングスター社会的責任投資株価指数」の構成銘柄に選定されている他、さまざまなSRIファンドに組み込まれています。また、投資家向けインターネットサイトの優秀企業賞として、大和インベスター・リレーションズから8年間連続で表彰されています。

取引先様

コラム

アンリツに期待すること

株式会社PALTEK PLDビジネスディビジョン セールスグループFSE 曾根 祥彦 様



半導体の納入などを通し、アンリツ様と弊社は20年以上のお取引があります。アンリツ様が取引先から改善や要望を受け入れるQU提案の制度はとてもよいと思います。弊社を含め取引先が定期的に駐在し、相談や問題に迅速に対応するヘルプデスクという仕組みも、こうした提案から実現したと聞いています。電話越しに話をするよりも、具体的、迅速に対応し解決できるので、お互いにメリットがあります。「アンリツに期待すること」は、取引先からの提案に対して、結果だけではなく、経過のフィードバックや代替案の検討などもっと密に行えたらと思います。そうすれば、今まで以上によい方向に進むと考えています。アンリツ様が率先的に計測器市場を開拓していくことによって、世の中の通信ネットワークが整い、より住みやすい環境になっていくと思います。これからも性能のよい製品を積極的に社会に提供していくことを期待すると同時に、弊社もパートナーとしてサポートしていきたいと思っています。

従業員

コラム

成長をはかる仕組みづくりを

アンリツ(株) 人事総務部人事チーム 山内 佳祐



大学技術系採用、退職者に関する手続き、高齢者・障がい者の雇用管理等を担当しています。アンリツには新しい考え方を大事にする企業風土があり、特に若い人に積極的に発言することを期待している雰囲気があります。採用活動の学生のアプローチにおいても、担当者間の共通意識はありますが、個々に任される部分も多く、私も創意工夫することで自分の採用スタイルを築くことを意識しています。その一つとして、人事担当者が学生に与える企業イメージは大きいので、先ず学生の興味や考え方方に沿って接することで自分自身を身近に感じてもらい、その後アンリツの事業や製品に興味を持ってもらうよう進めています。人事の対応や印象だけでなく、たまたま通りがかった従業員の挨拶一つで学生の感じ方は変わってくるので、人との接し方は大切だなと感じます。そして、単に採用して終わりではなく、その人が入社後どのように仕事を進め、成長しているのか、さらに活躍してもらうために何が必要かといったことを考えることは重要です。そのような部分が見える仕組みづくりを進みたいと思います。

コラム

相手を知り相手を思いやるコミュニケーションを

アンリツ(株) 人事総務部人事チーム 藤井 美里



主に新入社員教育の運営事務局を担当しています。入社2年目なので、自分自身の経験を次の新入社員教育に活かそうと思っています。入社して強く感じたことは、自分で考える機会がとても多いということです。配属当初はとにかく何でも教わるものかと思っていたのですが、まずは「あなたはどう考える?」と意見を求められることが多く、その点では自分が成長できるなと感じています。これまで仕事を通して強く感じていることは、職場や部門間の関係において、お互いにもっと興味を持てるような環境づくりが必要だということです。お互いにどういう動きをしているのかということに興味をもっていれば、仕事やコミュニケーションがもっと円滑に進むと思います。知つていれば自然と相手を思いやることができ、相手の状況に配慮して仕事を頼むとか、サポートをするなど、自分の仕事の進め方も変わってきます。なるべく他の部門へも積極的に出向いていき、できるだけ多くの方と直接話す機会を作るよう、これからも心掛けていきます。

▲ページ先頭へ戻る

地域社会との密着

- CSR報告2009
- トップメッセージ
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2
グローバル経済社会との調和
- 達成像3
地球環境保護の推進
- 達成像4
コミュニケーションの推進
- 2008年度目標達成度、
2009年度目標設定
- 事業概要
- 第三者意見
- 担当執行役員メッセージ
- 編集方針
- アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)



アンリツは、ステークホルダーとの対話・パートナーシップを通した社会貢献活動に取り組んでいます。特に、社会貢献活動の重点分野と位置づけている「青少年教育支援」では、本社を置く厚木市の要請に応え、アンリツグループの従業員が先生役となり、「おもしろ理科実験教室」を開催しています。また、グローバル社会の一員としての責任を果すために、世界各国のアンリツグループでも、「Sustainability」（持続可能性）に主眼を置いた取り組みを進めています。



おもしろ理科実験教室開催

青少年の理科離れが問題となっている昨今、アンリツが本社を置く神奈川県厚木市では、近隣企業や大学との共同プログラムである「おもしろ理科実験教室」を実施しています。アンリツもこの活動に賛同しており、2007年から従業員が先生役を務め、「おもしろ理科実験教室」を開催しています。

2009年3月に開催した厚木市立飯山小学校の理科実験教室では、「電池の仕組み」をテーマにしました。子どもたちに興味をもってもらうために、三洋電機さまのご協力をいただき「人間電池」の実験を授業の目玉にしました。

電池は、2種類の金属と電気を通す液体(電解液)があればできます。そこで、アルミホイルとスプーン、食塩水を利用して生徒自身が電池の一部になり、電子オルゴールを鳴らすという実験を行いました。



おもしろ理科実験教室講師
アンリツネットワークス株式会社
経営管理部長 相澤 宣男

飯山小学校の教壇に立ったのは、アンリツネットワークス(株)の相澤 宣男。まず、電池の仕組みを説明したあと、「人間電池」の実験へ。グループに分かれた生徒たちが机を囲み、食塩水をつけた左手をアルミホイルに置き、右手にはスプーンを持ちます。電子オルゴールのリード線のプラス極に一人の生徒のスプーンを、マイナス極をアルミホイルにつないで用意は完了。合図とともに、全員が右隣のアルミホイルにスプーンを押し付け、オルゴールが鳴ると実験成功です。

最初はとまっていた子どもたちも、一度成功すると、さまざまなアイデアやアレンジで実験が続き、時間が足りなくなるほど盛り上がりました。寄せられた感想文には、実験のおもしろさやオルゴールが鳴ったときの興奮などがつづられており、「電池の仕組み」を楽しく学べる授業になりました。

>>ラジオ工作教室・小中学校の体験学習・職場見学

▲ページ先頭へ戻る

2008年度目標達成度、2009年度目標設定

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2 グローバル経済社会との調和

達成像3 地球環境保護の推進

達成像4 コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、 2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

2008年度目標達成度、2009年度目標設定

特に記載のある場合を除いて、対象はアンリツ(日本)および国内グループ会社です。

達成像	2009年報告からの重要課題	2008年報告までのCSR項目	2008年度目標
【達成像1】 安全・安心で快適な社会構築への貢献	お客様へのサービス CS活動 品質向上活動	アシリツ(日本)およびグループ会社は: ①グローバルに一元化したWebを作成し、2009年3月を目標に提供 ②グローバルCSセンター調査の結果に基づく継続的な改善活動 -CSRニユアルの改善、環境に配慮した福利、納期短縮などを行い、顧客満足度指標(CSI)75点を目指す(日本) -CI調査を実行し、有効で効率的な顧客満足度指標を立案・実施(USA) ③グローバルCSセンター調査の結果に基づく改善活動を実施 -修理、修正平均期間5日を目指す	①グローバルWebを構築中: 2009年度下期 ②「エクスパック」(小物品・収容箱)というボルトの開発 ③修理、修正平均期間5日
企業ブランドの確立	――	この項目としては具体的な目標を未設定	2008年度の具体的な実績なし
社会的課題への積極的対応	――	この項目としては具体的な目標を未設定	2008年度の具体的な実績なし
コングラビアスの定義	コンプライアンス	①コンプライアンス推進に関する目標管理の継続強化 ②アソシエーション行動規範の統計 ③ヘルプラインの見直し・充実化 ④各箇所で法律に準拠した行動規範の作成を継続(日本以外の拠点)	①修理アシート紙面を受けて、各被顧客ごとに ②グループ行動規範の改定案を提出(日本) ③ヘルプラインの位置およびコーススルアド(ELUX、デンマークにおいて行動規範の位置)
リスクマネジメントの推進	情報セキュリティ 内部統制	①重要管理用40項目の継続的評価と改善活動 ②リューチェーンにおけるセキュリティガバナンスの推進 ③情報セキュリティ監査 -各事業統括活動の継続的改善 ⑤グローバルなWebセキュリティポリシーの策定と実施 注: 2008年度目標は「アンリツCSR報告書2008」P12 グローバル経済社会との該節の「今後の取り組み」とより作成しました。	①定期的な監査による部門内活動を行い、北 約100社の取引先に対するセキュリティ調査 -主な取引先と、企業統治規則にセキュリティ -リスク監査のデータ転送システムの構築を -実施 -既存インターネットWebについては、セキュ -グローバルWebについては、セキュリティ -監査基準方針による監査を実施 -主要なグループ会社で内部監査を実施 -国内拠点との直接的なリスクコントロ -アンリツ(日本)および国内グループ会社にリ -スルセキュリティを向上し、内部統治の実践的 -改善開始 ③財務報告に伴わる内部統制を整備し、国 -内監査基準方針及び「お願い事項」に基づ -た災害・事故を想定したBCP(事業継続計 -画)を策定 ④財務報告に伴わる内部統制を整備し、国 -内監査基準方針に基づ -た災害・事故を想定したBCP(事業継続計 -画)
サプライチェーンマネジメント	サプライチェーン	「経営基本方針」および「お願い事項」の伝達対象者リストの拡大と、そのための伝達手段の検討・構築	①経営基本方針及び「お願い事項」に基づ -た災害・事故を想定したBCP(事業継続計 -画)

>> 詳細をご覧になる場合はこちらを開いてください。

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

事業概要

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2 グローバル経済社会との調和

達成像3 地球環境保護の推進

達成像4 コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、 2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

アンリツグループは、**110年**を超える歴史を通して蓄積してきたオリジナル&ハイレベルな技術を基盤に、計測器・情報通信・産業機械などの分野で事業を展開しています。

事業概要

主たる事業の計測器では、世界各国に開発・製造・販売拠点を構え、光・デジタル、IP、ワイヤレス計測技術に加え、ネットワークサービスの品質保証も可能とするソリューションを提供。固定電話網、データ通信網、そして携帯電話網がIP技術で統合される次世代ネットワーク“NGN”の構築に貢献しています。また、道路・河川の公共監視システムや映像配信技術に加え、食品・医薬品、デジタル製品に搭載されるプリント基板の品質保証ソリューションなども提供。安全・安心で快適な社会づくりを支える事業を幅広く展開しています。



<図を拡大する>

▲ページ先頭へ戻る

第三者意見

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、

2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

CSR報告書 アーカイブ(PDF)

第三者意見

小熊執行役員様との意見交換、CSR推進部会、CSR推進メンバー会議などの傍聴を通して、貴社のCSR活動の一端を確認させていただきました。CSR経営をグループ一丸となって推進しようとする体制運用に、貴社の実直な姿勢を見てることができました。

そのような体制をベースに、当年度は重要性分析を実施されました。CSRは総花的な活動になりがちですが、本来は事業活動と密接に関連付けられた戦略的展開が求められるところであり、重要な課題に焦点を絞って活動を展開しようとする方向性に共感を覚えます。重要性分析の成果として12の重要課題と「4つのキーワード」が抽出されたとのことですが、貴社のCSR活動において重要なものはこれとこれだ、ぐらいの絞り込みがあると、なおよかったですのではないかと考えます。

冒頭の各CSR会議体による協議内容が、重要性分析をきっかけに、各部門のCSR活動に強弱のついた形で具体的におとし込まれていくことを、今後の展開として期待します。報告面においては、ダイジェスト版としての冊子、詳細版としてのwebサイト、という機能分化をスタートされました。特にダイジェスト版は、単にwebサイトからの抜粋、ということではなく、ストーリー性をもった特集をふんだんに取り入れられた点、すばらしいと思います。貴社のCSRへの熱き思いを象徴的なエピソードで紹介することで、受け手の読者に強いメッセージ性と具体性をもって伝わりやすいと考えるからです。

そのような熱き思いを伝えることができたら、その後にやるべきのはパフォーマンスデータ含む活動成果をテーマとした、コミュニケーション展開です。この次展開時点でのコミュニケーションツール機能について、webサイトに依存せざるを得ないとするのではなく、CSR報告書ダイジェスト版冊子にも、上述の重要性分析で抽出された活動を評価しうる指標の記述が望れます。貴社は平成21年4月27日の「希望退職者募集の結果に関するお知らせ」にて、平成21年3月末時点で、グループ全体で従業員約6%に相当する約250名の人員削減含む、厳しい緊急経営施策を公表されました。このダイジェスト版でも、戸田社長様がトップメッセージで言及されておられます、このCSR報告書ダイジェスト版冊子の本文中に、その概要を掲載することがあってよかったですのではないか、と考えます。



株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役
福島 隆史



第三者意見を受けて

昨年度第三者意見でご指摘いただいた冊子での情報開示の限界を克服すべく、今回(2009年版)からCSR活動に関する詳細な情報はホームページで報告することにいたしました。本冊子では、4つのキーワードに沿ってCSRへの取り組みを分かりやすくお伝えし、読者の皆さんに興味を抱いていただけることに重点を置き編集することに努めました。今回、(株)サステナビリティ会計事務所 代表取締役 福島隆史様から第三者意見として3つのご指摘をいただきました。第一番目の重点課題の絞込みについては、2009年度は重要性測定で抽出した課題を深化させ、具体的な事業活動に結び付けています。第二に、ダイジェスト版にも活動実績データを明示すべきとの点ですが、今後ステークホルダーの皆さまからのご感想などを踏まえ、検討してまいります。第三番目は、冊子の本文中に雇用調整施策に関する言及が必要ではないかとの点です。この点に関しては、平成21年1月28日「緊急経営施策の策定及び実施に関するお知らせ」および平成21年4月27日「希望退職者募集の結果に関するお知らせ」にて適時開示しております。今後も福島様からの指摘事項やステークホルダーの皆さまからのご意見などを真摯に受けとめ、活動に反映させながら取り組みを推進していく所存ですので、何卒ご理解のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

▲ページ先頭へ戻る

担当執行役員メッセージ

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント**CSRの考え方**

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、**2009年度目標設定**

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ**編集方針****アンケート****CSR報告書 アーカイブ(PDF)**

担当執行役員メッセージ

**マネジメントとコミュニケーションを通して、社会の変化をとらえる組織づくりを**アンリツ株式会社
取締役 執行役員 小熊 康之

アンリツのCSR報告書はこのたび5年目を迎えました。その間、社会情勢はめまぐるしく変化し、ステークホルダーの皆様が重要と考えるもの、すなわち評価基準や判断基準(クライテリア)の変化の激しさを感じています。次のクライテリアを見極めていくためにも、お客様・株主・投資家・取引先・地域社会など、すべてのステークホルダーの皆様と今まで以上にコミュニケーションをはかり、情報を共有していくことが重要だと考えています。

アンリツは、本業を通じて安全・安心で快適な社会構築に貢献し続けることが使命であり、事業活動そのものがCSRであると捉えています。組織全体を貫くひとつの事業戦略を明確にすることにより、社内のマネジメントや活動もステークホルダーの期待に応える方向に向かいます。例えば、環境への取り組みに関しても、個別の目標を達成することで満足するのではなく、製品のライフサイクル全体にわたり温暖化防止などに取り組むライフサイクルシンキングという大きな戦略に沿って活動することが重要です。



アンリツは、企業向けソリューションを主な事業としているため、当社の事業を知らないステークホルダーの方々には、その事業がどのように社会に貢献しているのかが理解しにくい側面があります。そこで、当社のCSR活動を分かりやすく報告し、ステークホルダーの皆様とコミュニケーションをはかることによって経営品質を向上させ、アンリツブランドを確立するよう努力していく所存です。今後ともご支援をお願い申し上げます。

▲ページ先頭へ戻る

編集方針

CSR報告2009

トップメッセージ

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2008年度目標達成度、

2009年度目標設定

事業概要

第三者意見

担当執行役員メッセージ

編集方針

アンケート

[CSR報告書 アーカイブ\(PDF\)](#)

編集方針

今回(2009年版)からアンリツのCSR活動に関する情報は、ホームページで詳細を報告します。また、冊子(ダイジェスト版)では、社会およびステークホルダーの視点で重要な課題であり、かつアンリツにとっても重要な課題を4つのキーワードに絞り込み、それらに対する主な取り組みを特集のかたちで分かりやすく報告することを基本としています。

参考としたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポートイング・ガイドライン 2006」

活動報告対象期間

2008年4月1日～2009年3月31日

(一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます)

活動報告対象組織

報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。以下のルールで区別しています。

「アンリツ」または「アンリツグループ」

記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全体の場合

「アンリツ(株)」

記事内容がアンリツ(株)単体の場合

「グループ会社」

記事内容がグループ会社またはその一部の場合

公開日

2009年7月31日

[▲ページ先頭へ戻る](#)